

2-2 人口の将来見通し

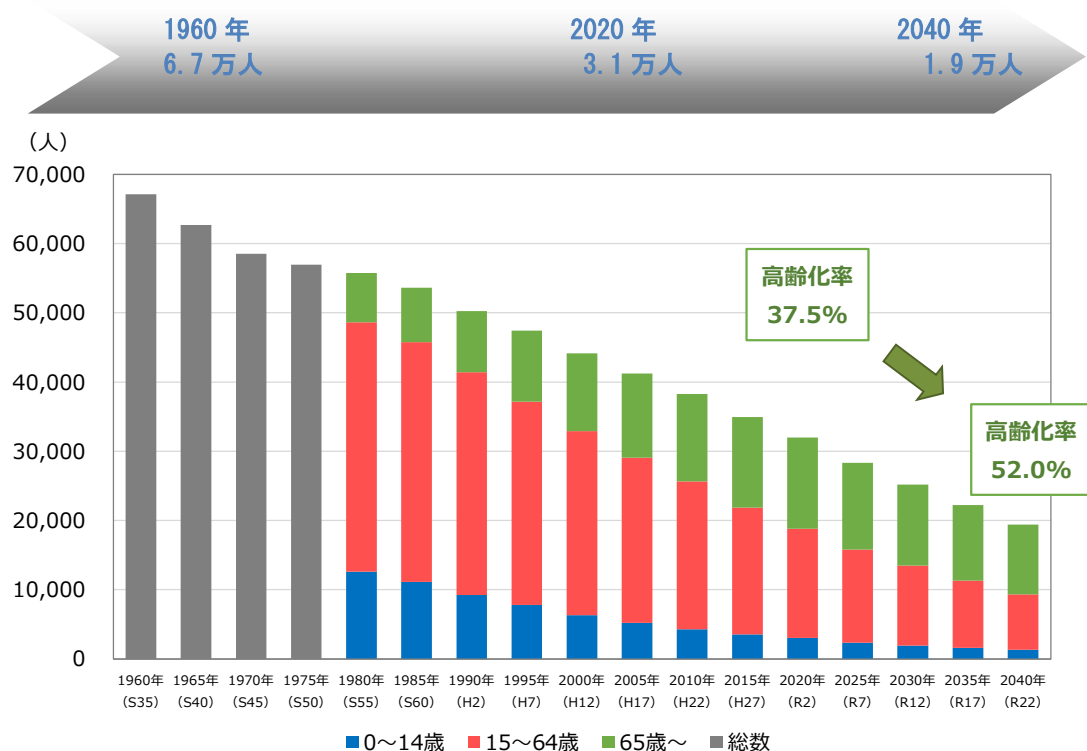
人口の将来予測を行うにあたっては、「立地適正化計画作成の手引き（案）」に従い、「地区別に自然増減のみ考慮したコーホート推計を行い将来人口を予測する方法」を採用した。その要領は次のとおりである。

- i. 社人研が2040年まで5年刻みで値を公表している生存率、子ども女性比、0-4歳性比を用いて、対象メッシュの男女別・5歳階級別人口を5年刻みで計算、封鎖系人口でコントロールトータルを実施し、推計年次に達するまで計算し、メッシュ毎に将来人口を推計。
- ii. 社人研が値を公表している将来推計人口値等を基に市町村が設定している将来人口をコントロールトータルとし、i. で推計したメッシュ単位の推計結果について補正。

ここで「封鎖系人口」としては、八幡浜市を対象とした社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の5歳階級別将来推計人口を用いた。またメッシュ単位の集計と同様に小地域（町字）単位の集計を行った。

(1) 都市全体の人口動向

八幡浜市全体としては、総人口は1960年以降は一貫して顕著な減少傾向にある。また年齢階層別には、高齢化率が増加の一途をたどり、2040年には50%近くに達すると推計されている。その一方、生産年齢人口（子育て世代）も減少するとともに少子化も進行している。

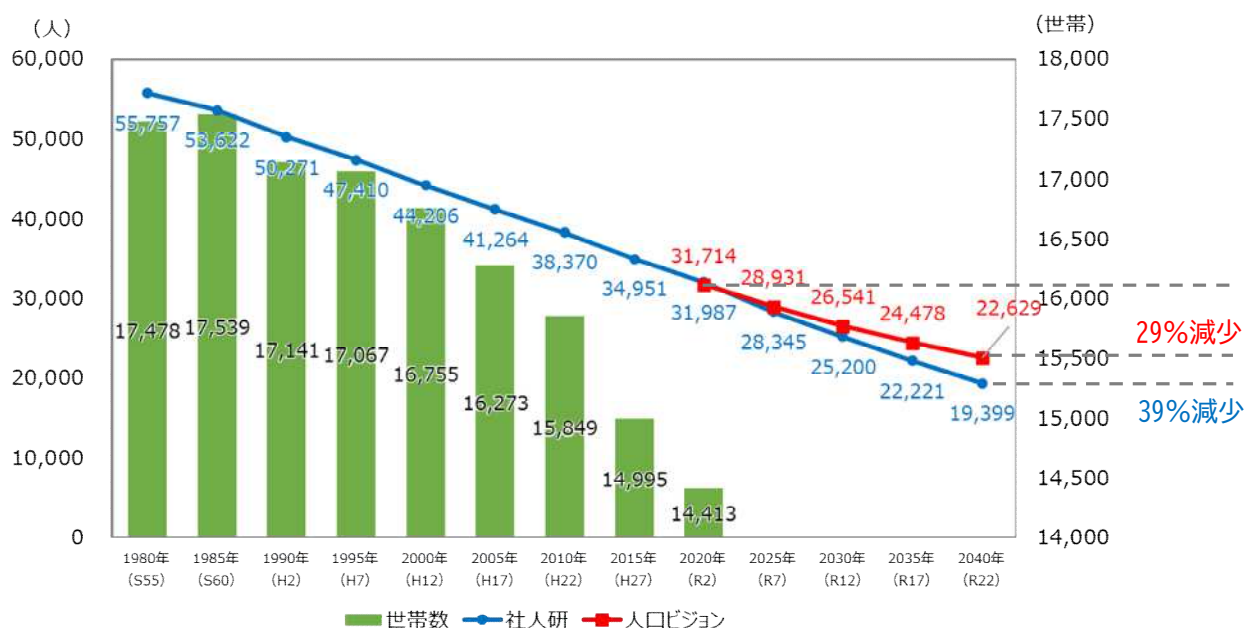


資料：1980-2010年は国勢調査、2015年以降は日本の地域別将来人口推計（社人研）

図 2-34 総人口、年齢層別人口の推移

高度成長期以降、一貫して総人口は減少し、少子化・高齢化が顕著である。2040年には高齢化率が50%を超えると見込まれている。

人口の将来見通しについては、2020年に比べ、現在の趨勢では2040年には39%減少の見込みとされている（社人研推計）。これに対し、「八幡浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における人口ビジョンで採用されたシミュレーションでは、29%減少と想定している。



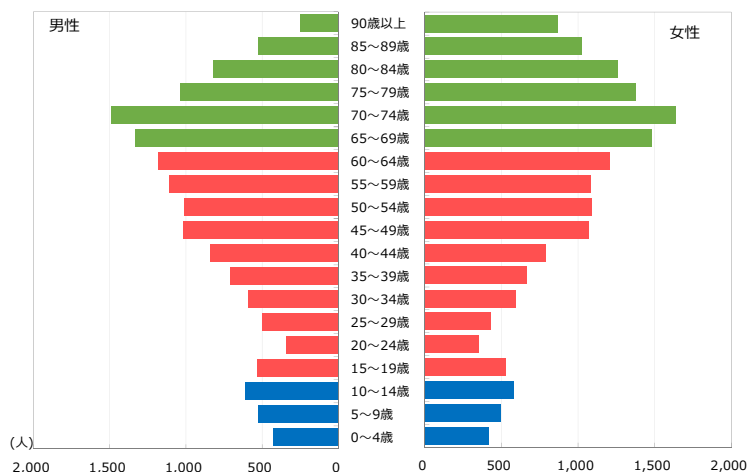
資料：1980-2010年は国勢調査、2015年以降は日本の地域別将来人口推計（社人研）

図 2-35 将来人口の見通し

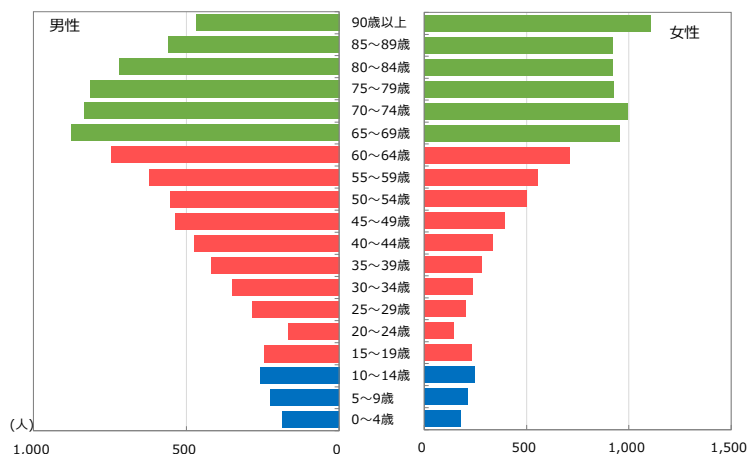
現在の趨勢では2040年までに人口39%減少するところ、高齢者でも出歩きやすく健康・快適な生活を確認すること、子育て世代などの若年層にも魅力的なまちにすることなど、都市全体の構造を見直したコンパクトなまちづくりにより、人口減少を29%までに抑える努力を払うことが重要である。

人口ピラミッドを作成してみると、2020年に70歳代前半がピークであるのに対し、20年後の2040年には男性の人口ピークは大きく変わらないが、女性のピークは90歳代となることがわかる。

【2020年】



【2040年】



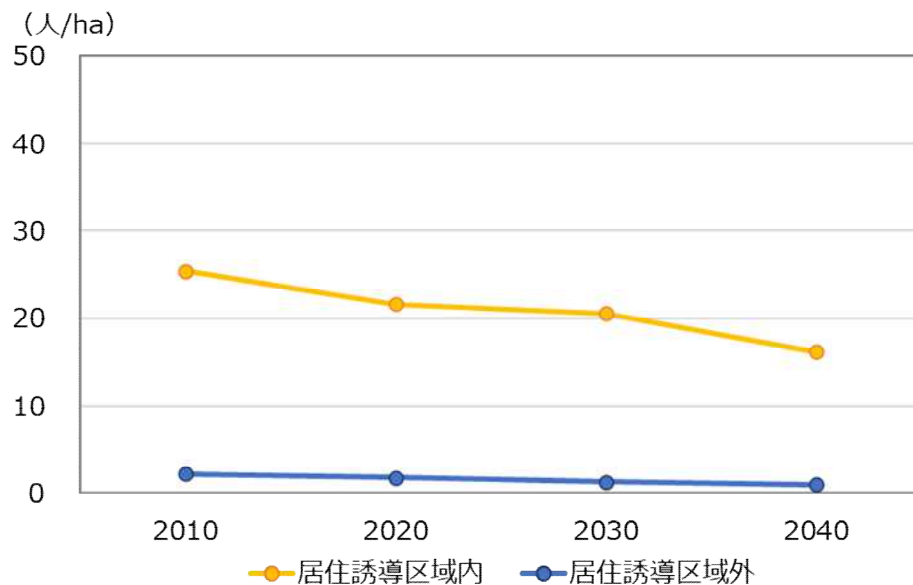
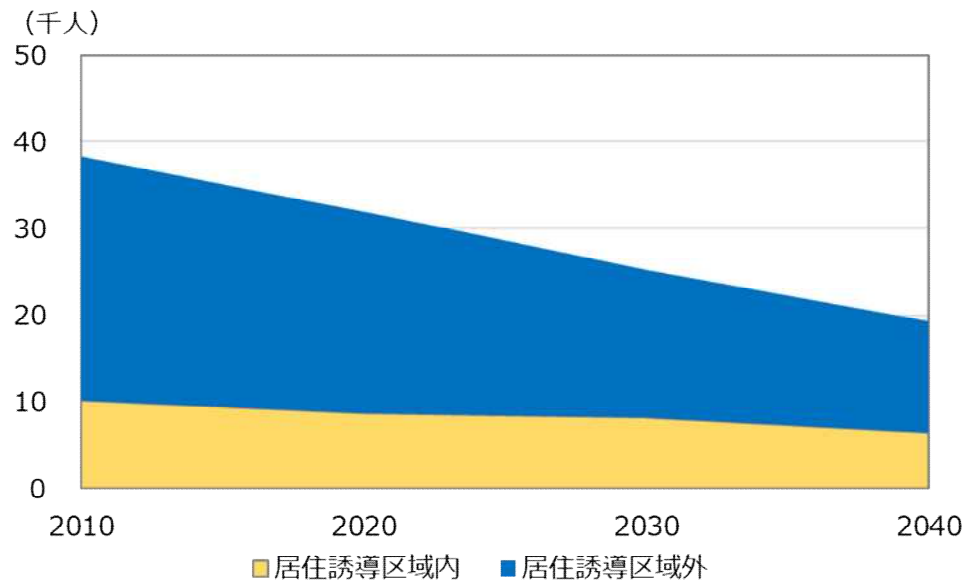
資料：2020年は国勢調査、2040年は日本の地域別将来人口推計（社人研）

図 2-36 人口ピラミッドの推移

高齢化の進展、特に女性の長寿命化にみられるように、医療・福祉等の生活サービスが効率的に提供されるようにすることと、居住者がこれらの生活サービスを利用しやすくなることです。重要になる。

(2) 居住誘導区域内の人口見通し

居住誘導区域内は際立って高い人口密度を示しており、都市がコンパクトに収まっていることが分かるが、人口推移は過去 10 年間に減少、2040 年にも減少することが見込まれている。



	人口 (千人)				面積 (ha)	人口密度 (人/ha)			
	2010年 (現況)	2020年 (現況)	2030年 (推計)	2040年 (推計)		2010年 (現況)	2020年 (現況)	2030年 (推計)	2040年 (推計)
行政区域全体	38.4	32.0	25.2	19.4	13265	2.89	2.41	1.90	1.46
居住誘導区域内	10.2	8.7	8.3	6.5	402	25.49	21.65	20.56	16.18
居住誘導区域外	28.1	23.3	16.9	12.9	12863	2.19	1.81	1.32	1.00

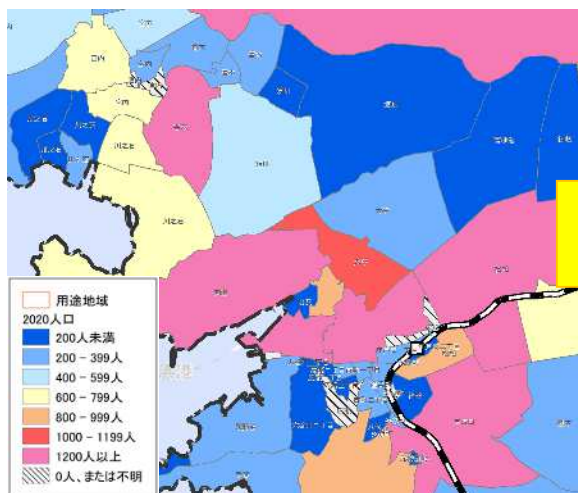
※町丁字別人口からの按分による概算。2010～2020 年は国勢調査結果。将来推計人口は 2018 年国勢調査に基づく社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計結果を使用。面積は GIS での計測値を使用。

図 2-37 居住誘導区域内外の人口の推移

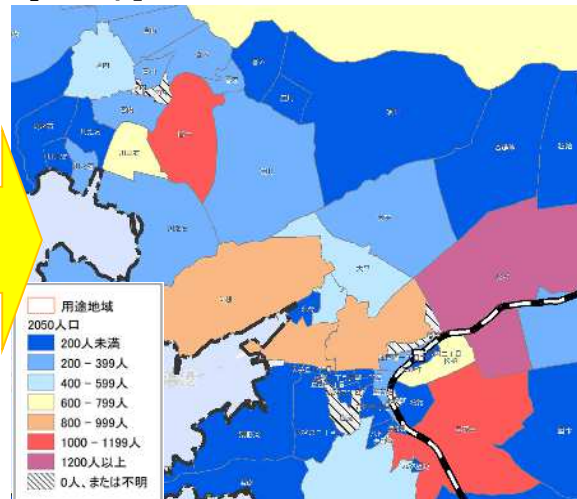
(3) 町字別の人口見通し

社人研の将来推計に従った町字別推計（現在の趨勢）では、2050 年までにほとんどの町字で人口が減少する。特に八幡浜中心部での人口減少が著しい。

【2020 年】



【2050 年】



資料：2020 年は国勢調査、2050 年は井上孝（青山学院大学教授）が構築した「全国小地域別将来人口推計システム（<https://agu-econ.maps.arcgis.com/apps/webappviewer/index.html?id=00804e1e1beb45e1864c5f24a65fd40d>）」を使用した。

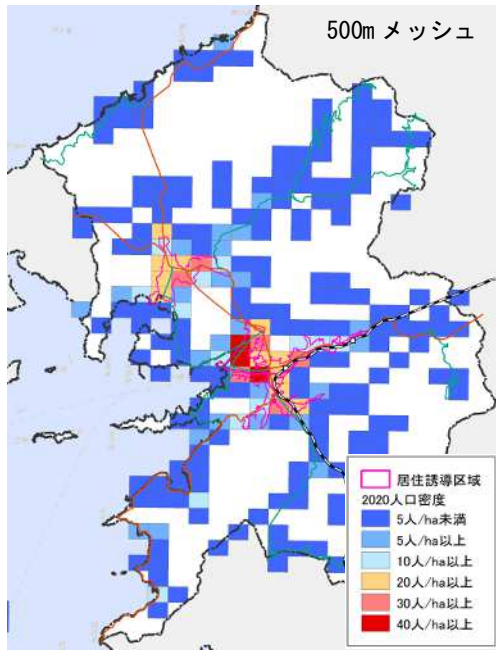
図 2-38 将来人口の見通し（小地域単位）

現在の趨勢によれば、市内各地で人口密度が減少し、道路の維持や供給処理施設の管理など必要な行政サービスの効率性が低下する恐れがある。特に中心市街地での人口減少により、生活サービスの市場性が低下し、サービスを提供する事業の持続性が損なわれることの懸念が大きい。

(4) 人口密度の分布動向（自然増減のみ考慮）

将来時点における人口密度低下の見直しを行うと、都市中心周辺地区で人口密度が顕著に低下し、人口集中地区の目安である 40 人／ha を満たす 500m メッシュは 2050 年にはなくなるとみられる。副中心周辺地区でも人口密度の低下がみられる。

【2020 年】



【2050 年】

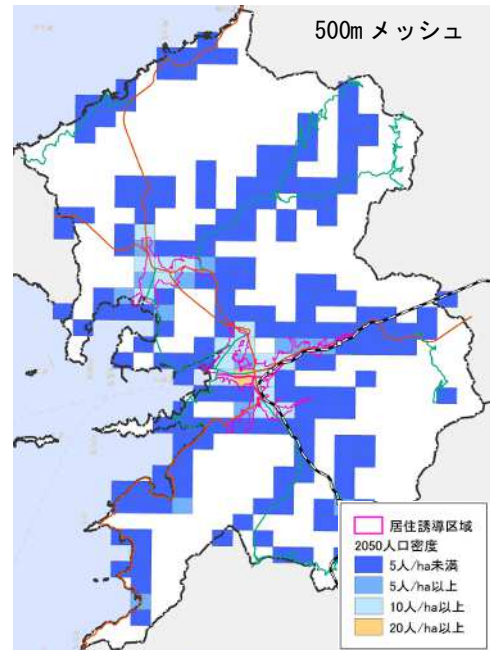


図 2-39 人口分布

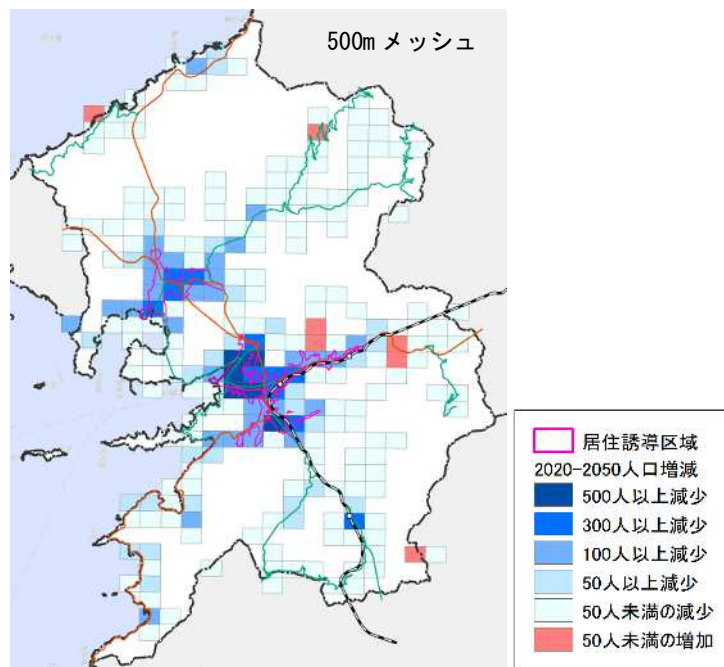
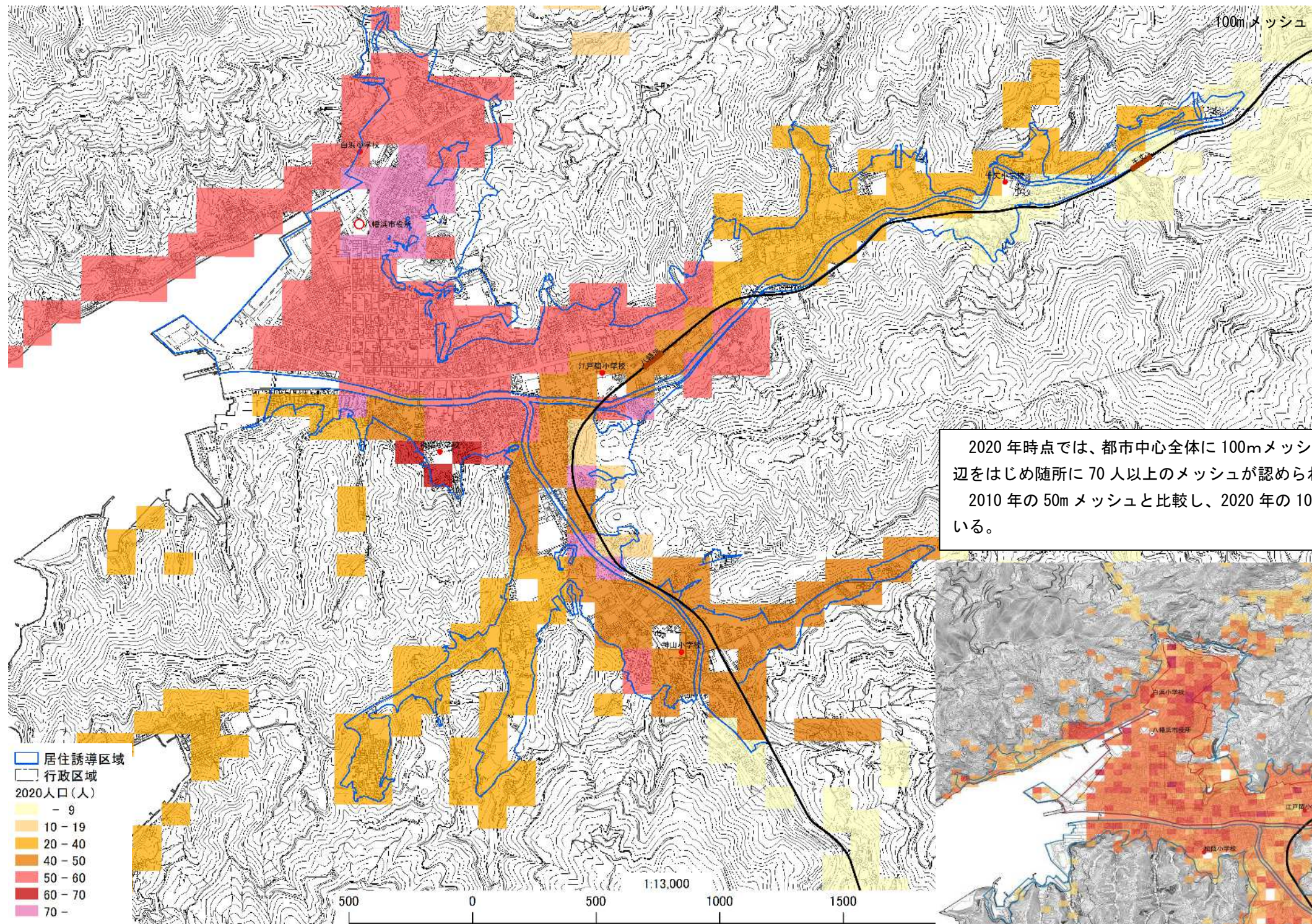


図 2-40 500mメッシュ推計人口の増減（2020 年→2050 年）

都市中心・副中心地区で、著しい人口密度の低下が見込まれている。



2020 年時点では、都市中心全体に 100mメッシュあたり 20～70 人程度の人口が集積し、八幡浜市役所周辺をはじめ随所に 70 人以上のメッシュが認められる。
2010 年の 50m メッシュと比較し、2020 年の 100m メッシュでは松陰小学校付近の人口の集積が目立っている。

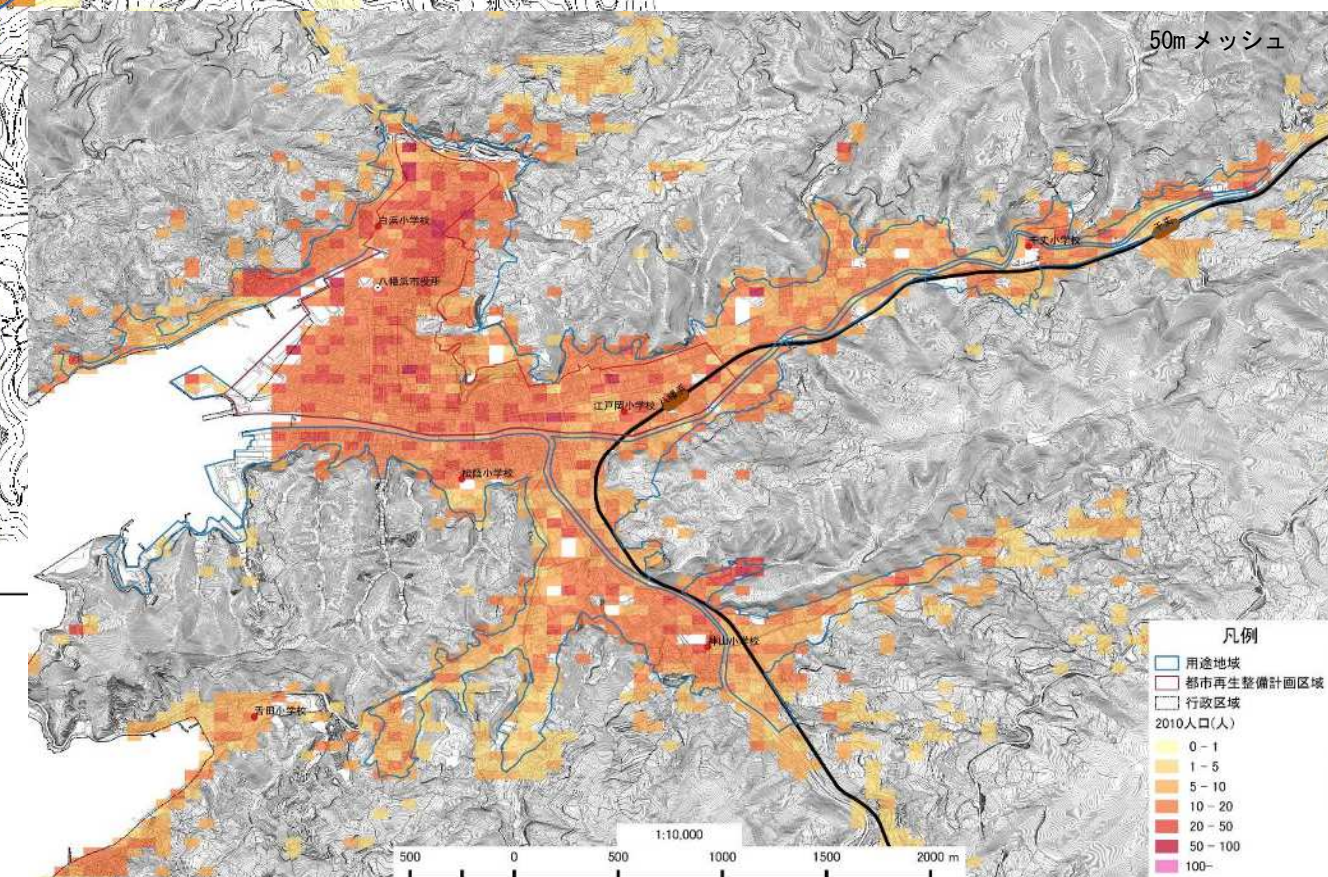


図 2- 41 100mメッシュ人口分布 (2020 年)《都市中心 (旧八幡浜中心部)》

出典：都市計画基礎調査 (2023 年)

図 2- 42 50mメッシュ人口分布 (2010 年)《都市中心》

出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

自然増減のみを考慮した将来人口推計結果によれば、2040 年時点では、都市中心全体に人口が減少し、商業地域でも 50mメッシュ当たり 10 人以下の人口であるメッシュが多くなっている。神山小学校区や千丈小学校区ではほとんどが 1～5 人のメッシュで占められており、人口分布が散漫になっていると言える。

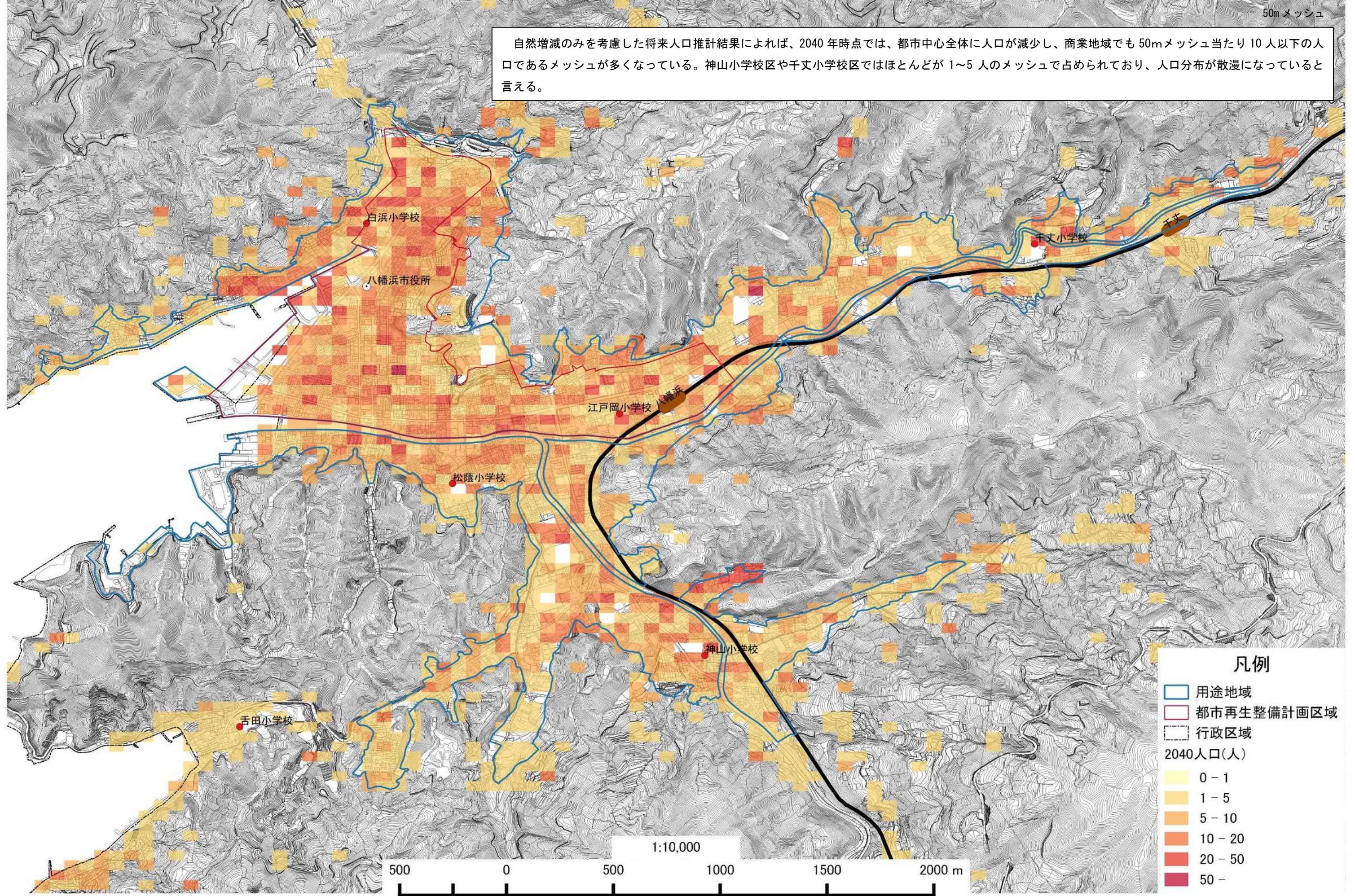


図 2-43 50mメッシュ人口分布 (2040 年)《都市中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

2010 年から 2040 年までの人口増減をみると、都市中心全体で減少が明らかで、特に商業地域に減少の大きいメッシュが分布している。人口増加を示すメッシュも散発的に認められ、全体として放置しては分散化が進むことが見て取れる。

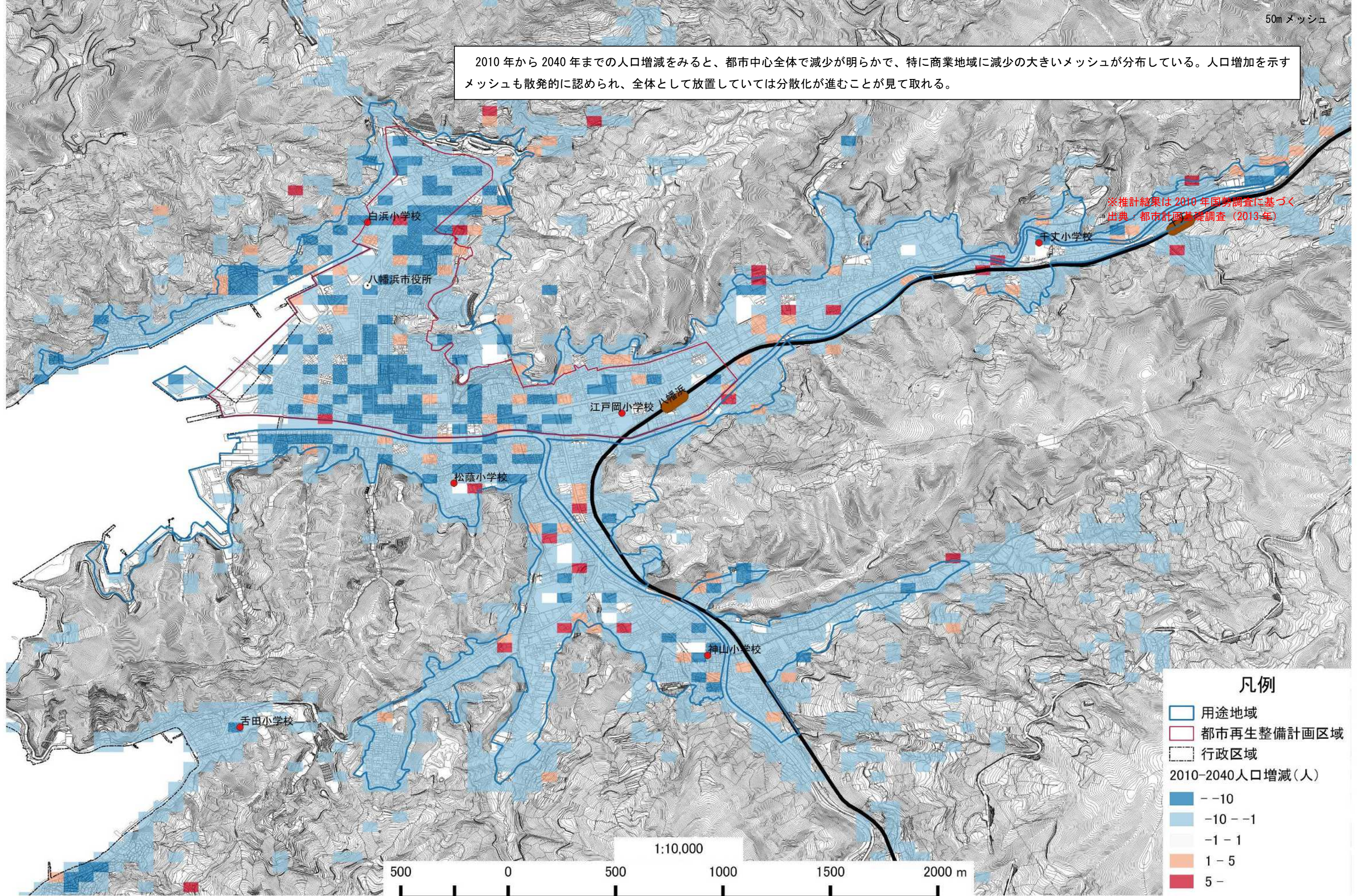
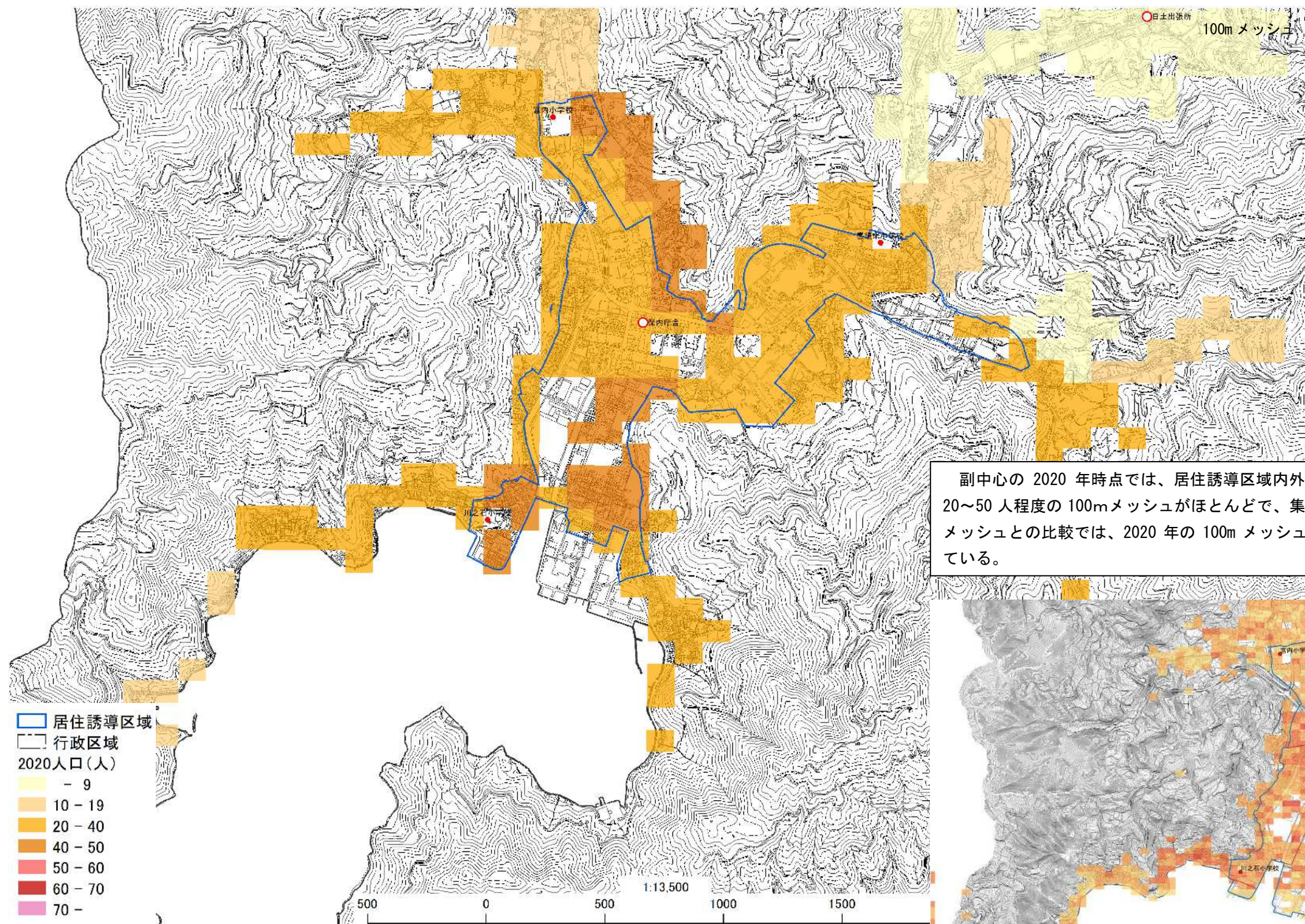


図 2-44 50mメッシュ推計人口の増減（2010 年→2040 年）《都市中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査（2013 年）



副中心の 2020 年時点では、居住誘導区域内外にわたって広く人口が分布しており、保内庁舎周辺でも 20～50 人程度の 100mメッシュがほとんどで、集積度は都市中心に比べて大きくはないが、2010 年の 50mメッシュとの比較では、2020 年の 100m メッシュでは保内庁舎及び川之石小学校付近の人口集積が目立っている。

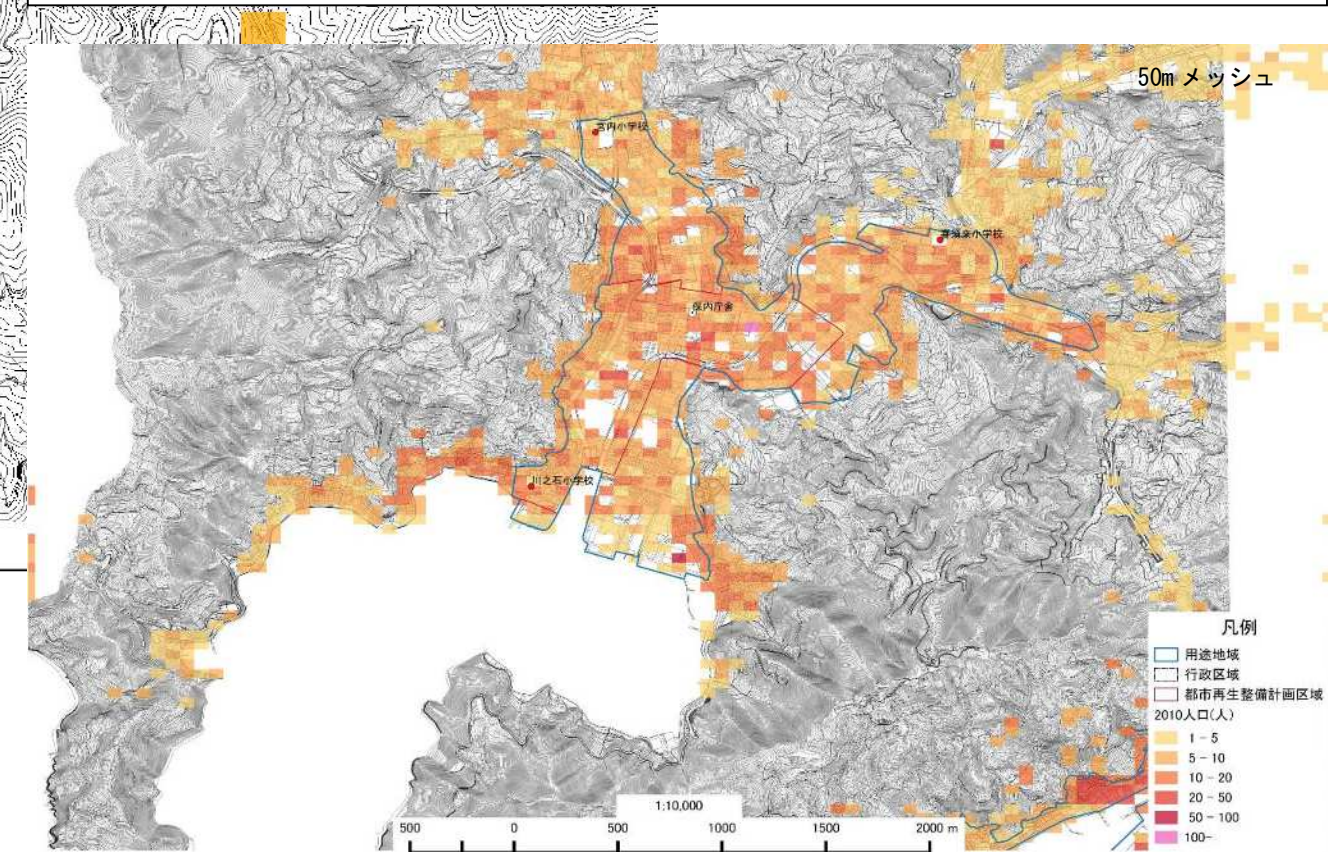


図 2-46 50mメッシュ人口分布 (2010 年)《副中心》

出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

図 2-45 100mメッシュ人口分布 (2020 年)《副中心(旧保内中心部)》

出典：都市計画基礎調査 (2023 年)

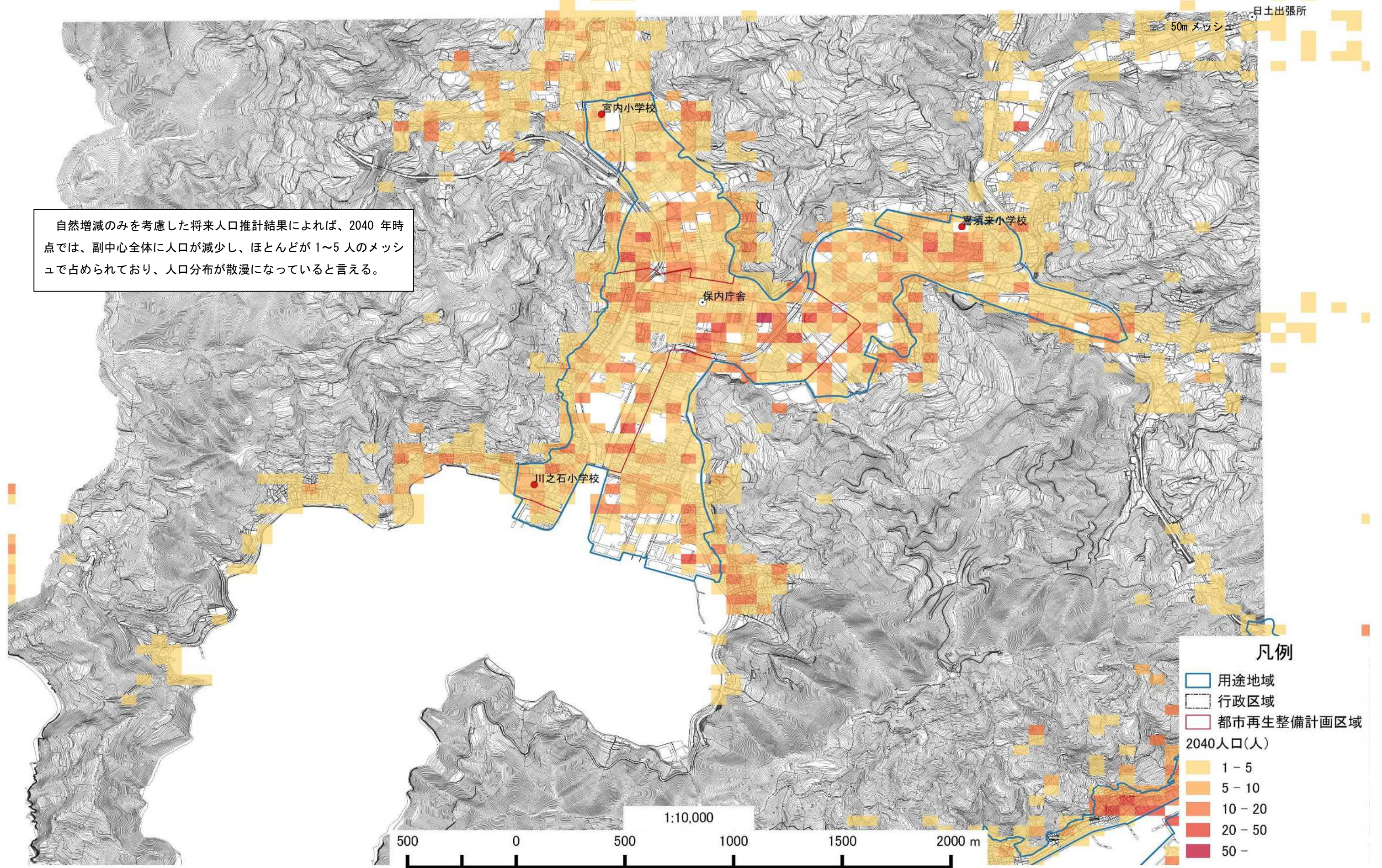


図 2-47 50mメッシュ人口分布 (2040 年)《副中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

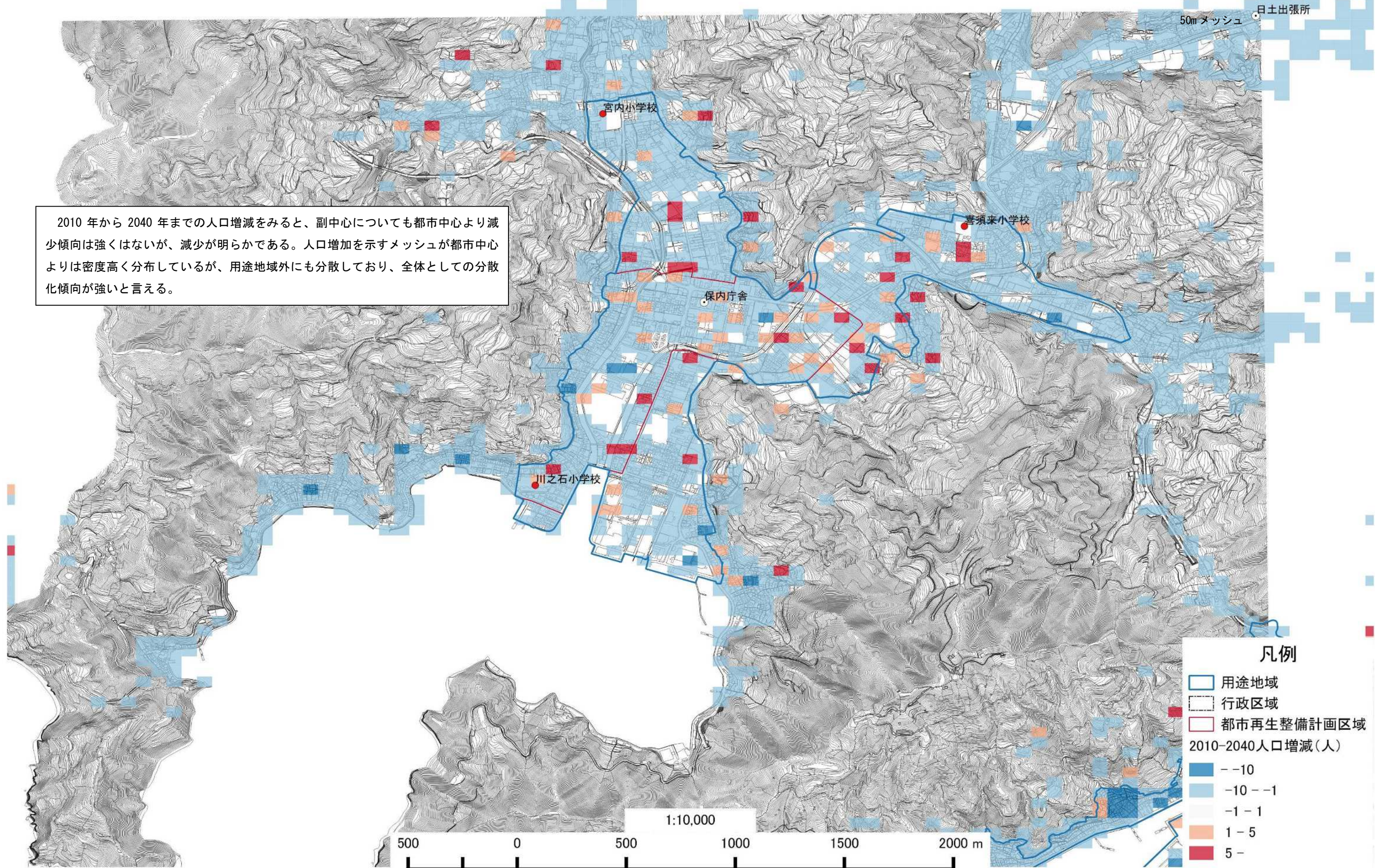


図 2-48 50mメッシュ推計人口の増減 (2010 年→2040 年)《副中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

(5) 高齢者数の分布動向（自然増減のみ考慮）

高齢者人口も都市中心で減少しているが、総人口の減少がより著しいため、高齢化率は多くの地点で現況より高くなることを見込まれている。

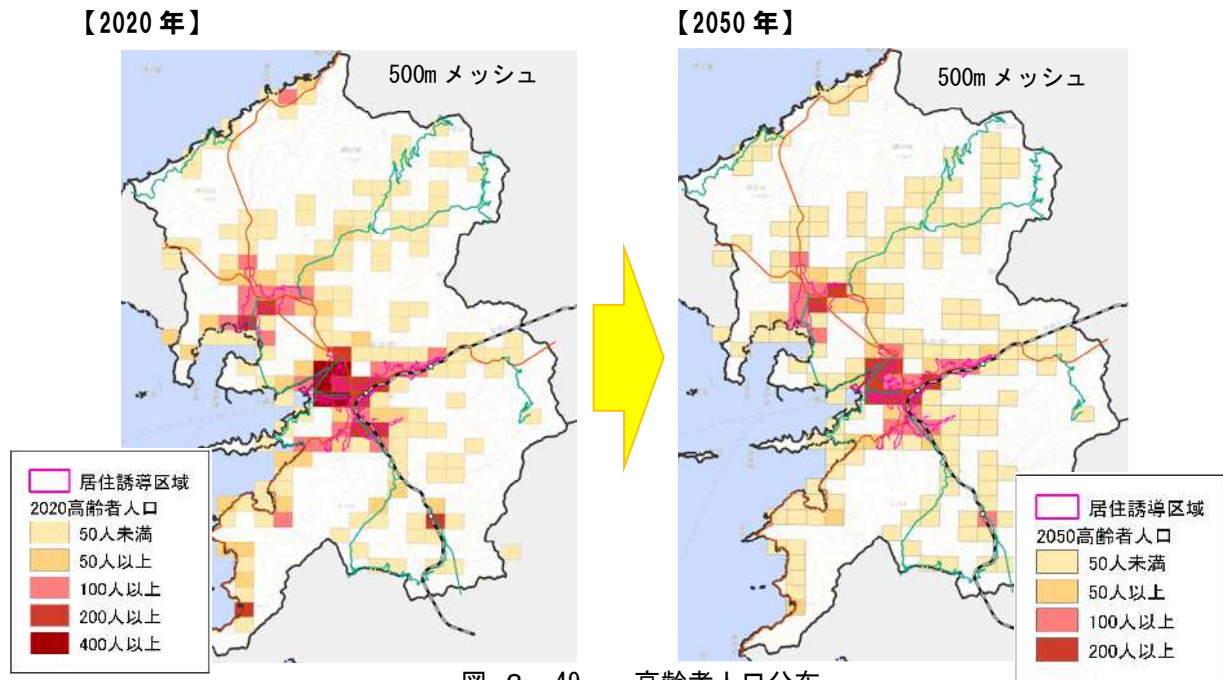


図 2-49 高齢者人口分布

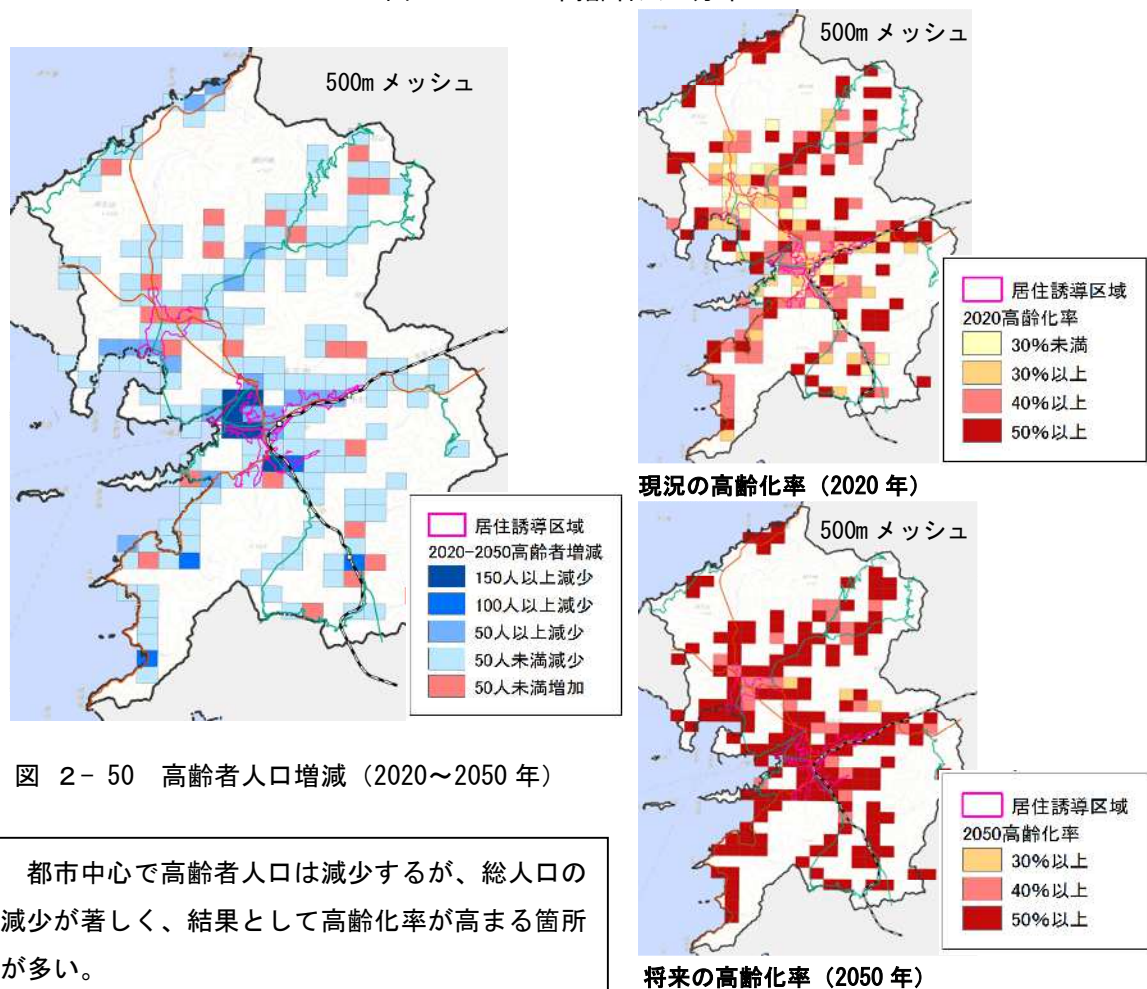
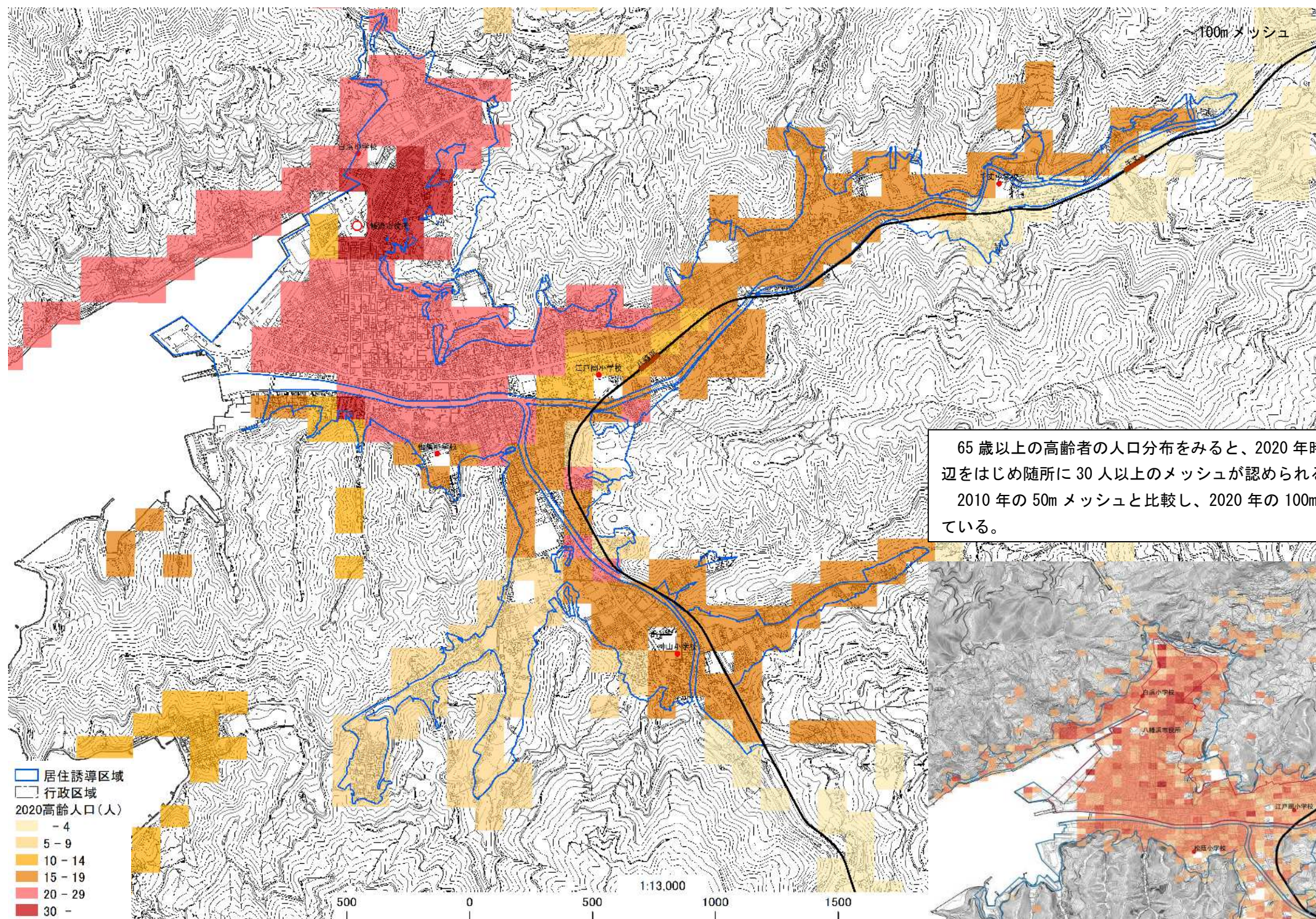


図 2-50 高齢者人口増減（2020～2050 年）

都市中心で高齢者人口は減少するが、総人口の減少が著しく、結果として高齢化率が高まる箇所が多い。



65 歳以上の高齢者の人口分布をみると、2020 年時点では、都市中心全体に人口が集積し、白浜小学校周辺をはじめ随所に 30 人以上のメッシュが認められる。
2010 年の 50m メッシュと比較し、2020 年の 100m メッシュでは八幡浜市役所付近の高齢者人口が目立っている。

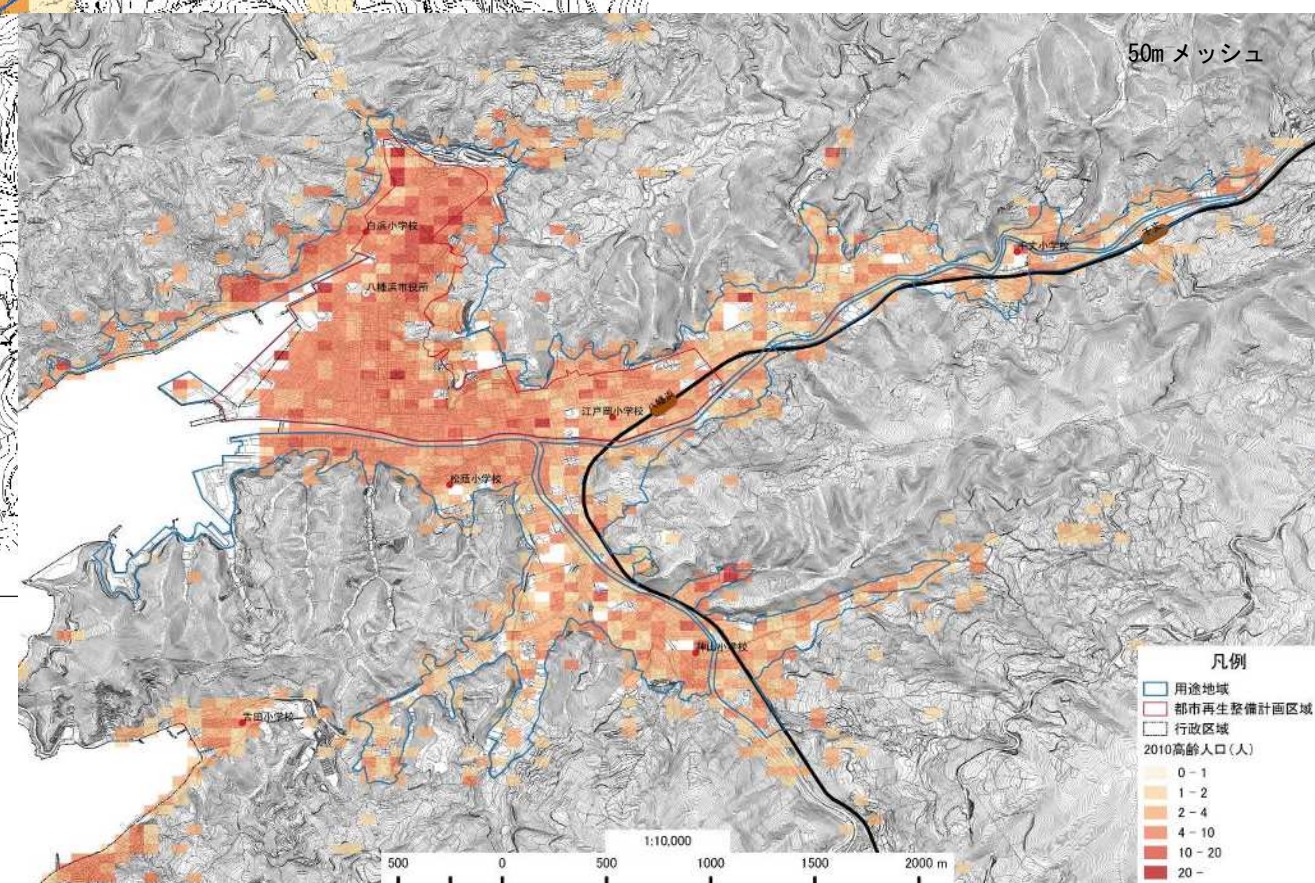


図 2- 51 100mメッシュ高齢者人口分布（2020 年）《都市中心》

出典：都市計画基礎調査（2023 年）

図 2- 52 50mメッシュ高齢者人口分布（2010 年）《都市中心》

出典：都市計画基礎調査（2013 年）

自然増減のみを考慮した将来人口推計結果によれば、2040 年時点の都市中心の高齢者人口分布は、全年齢の人口が減少していることに比べると、大きな減少とは言えない。

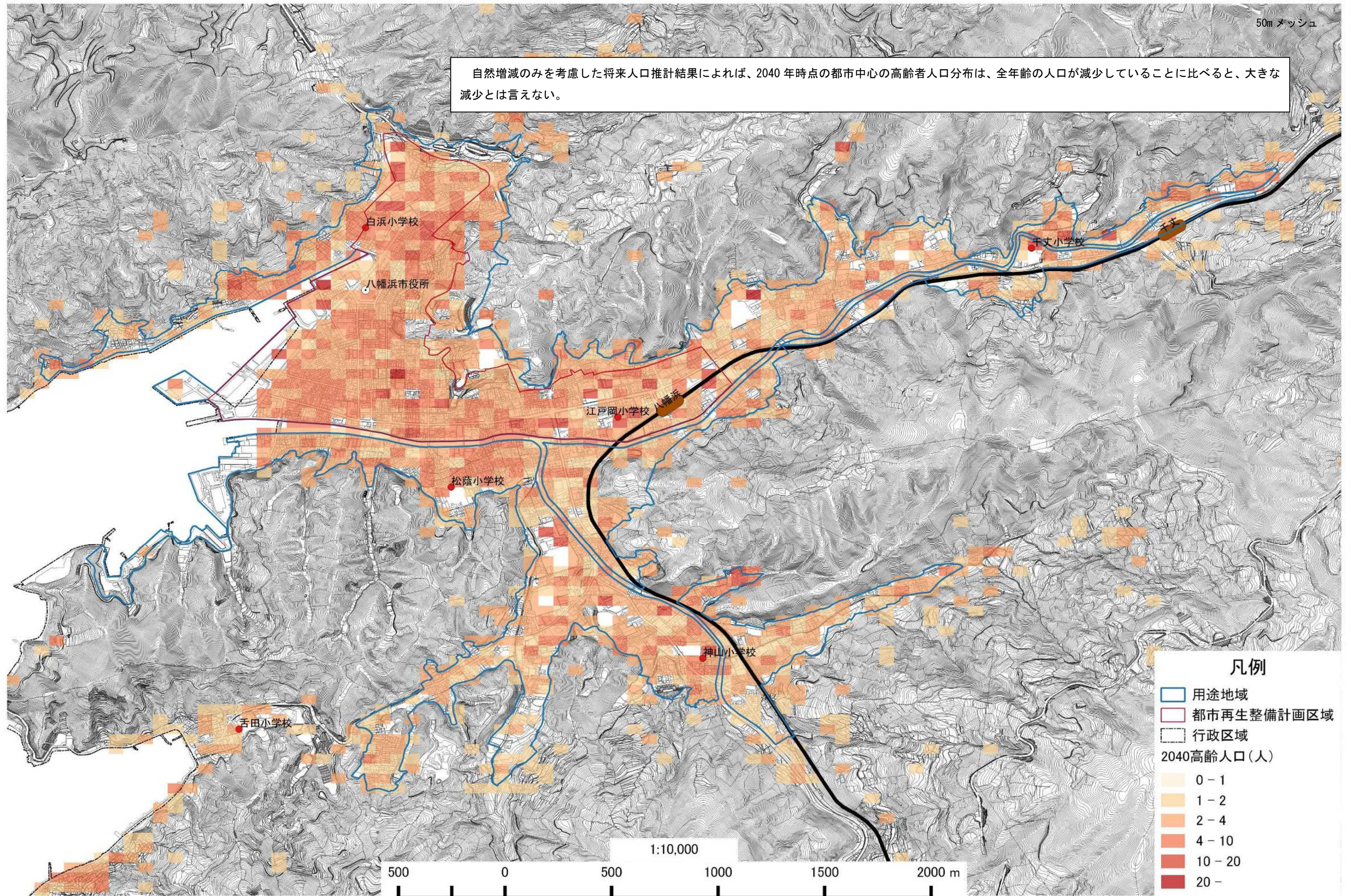


図 2-53 50mメッシュ高齢者人口分布 (2040 年)《都市中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

2010 年から 2040 年までの高齢者の人口増減をみると、都市中心全体で減少が明らかであるものの、全年齢の人口減少傾向に比べると減少の割合は低いといえるが、高齢者人口が小幅に増加しているメッシュの分布が広がっているともいえ、高齢者の人口分布の分散化は一層顕著であるといえる。

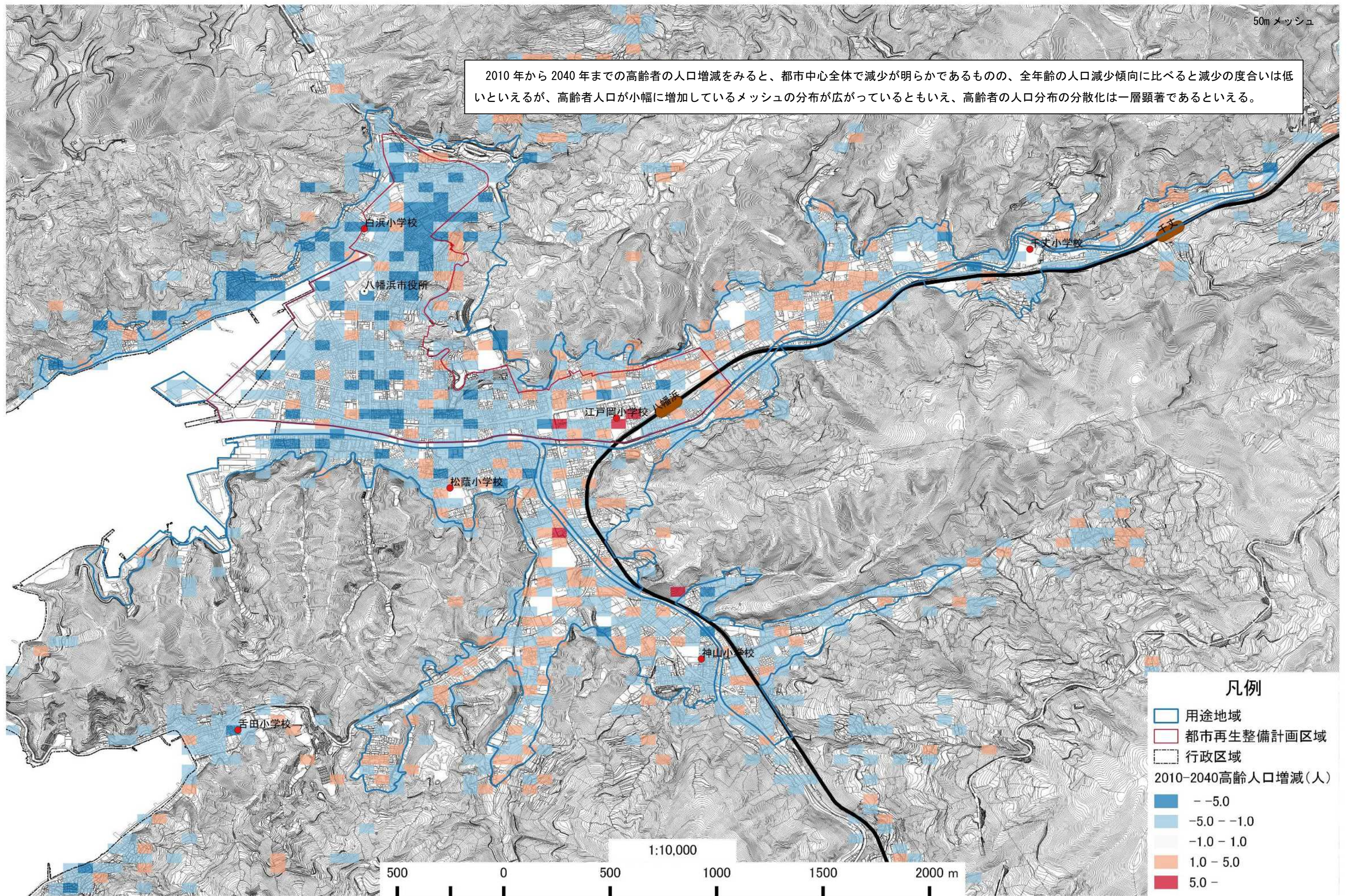


図 2-54 50mメッシュ高齢者推計人口の増減 (2010 年→2040 年)《都市中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

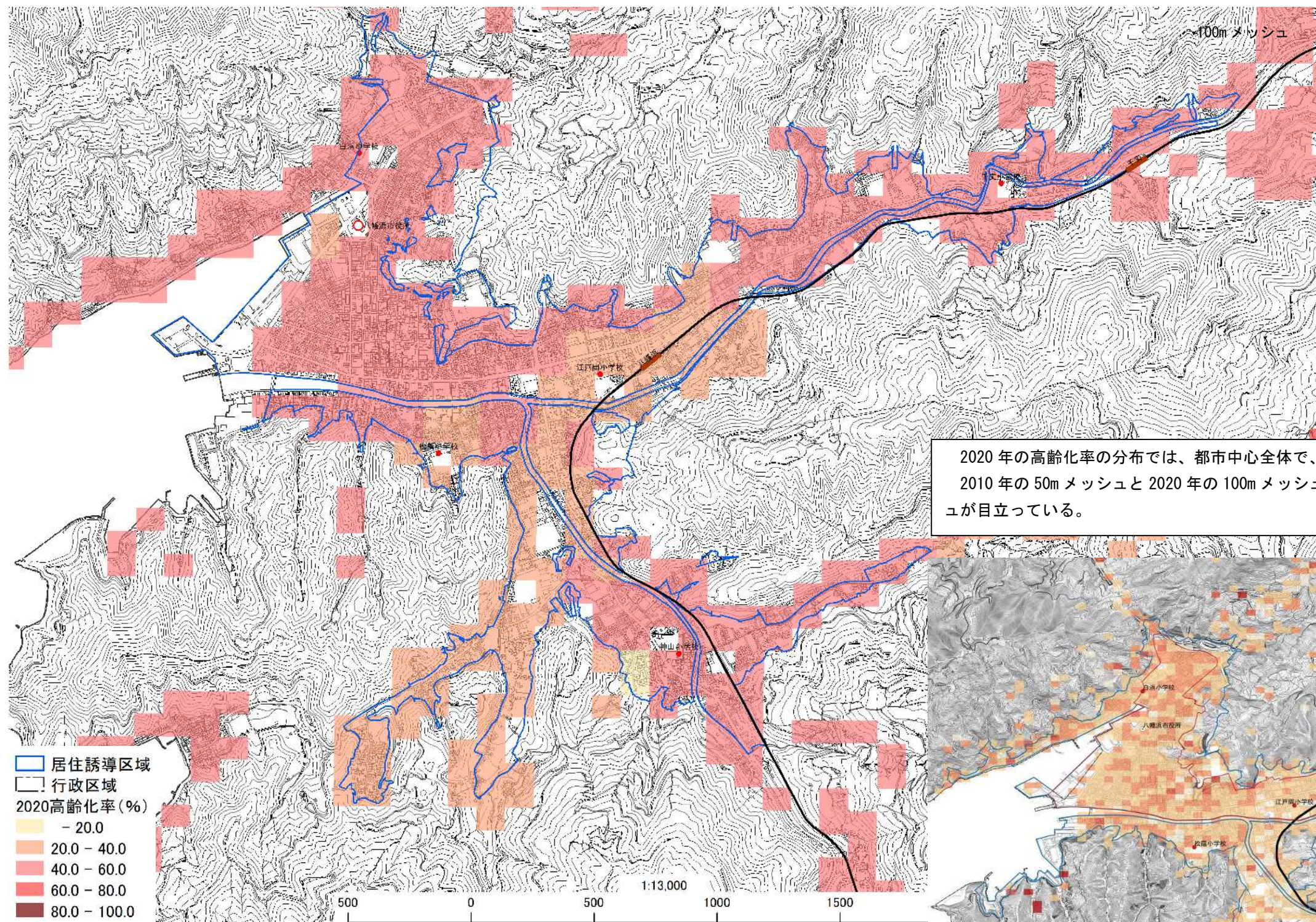


図 2-55 100mメッシュ高齢化率分布 (2020 年)《都市中心》

出典：都市計画基礎調査 (2023 年)

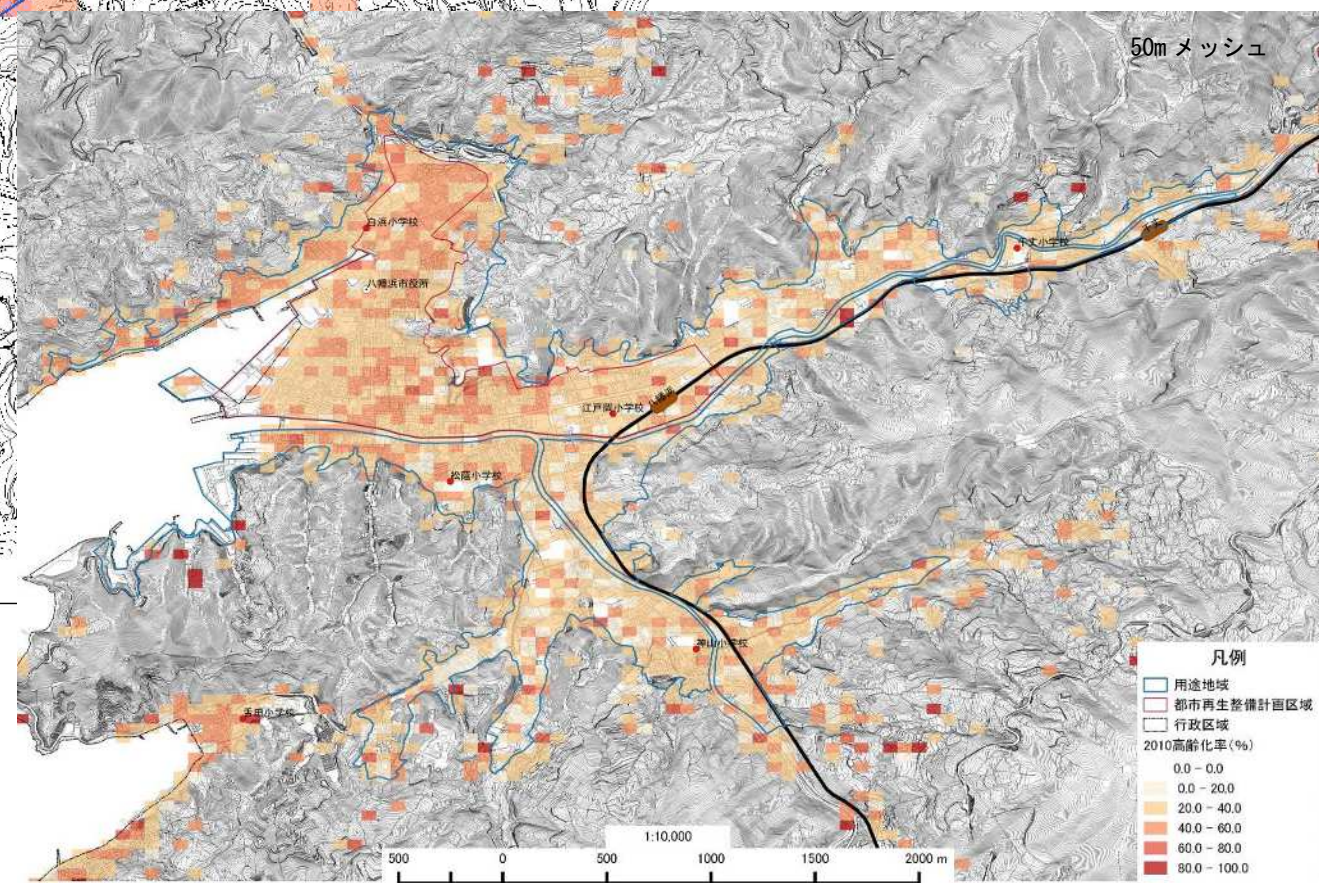


図 2-56 50mメッシュ高齢化率分布 (2010 年)《都市中心》

出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

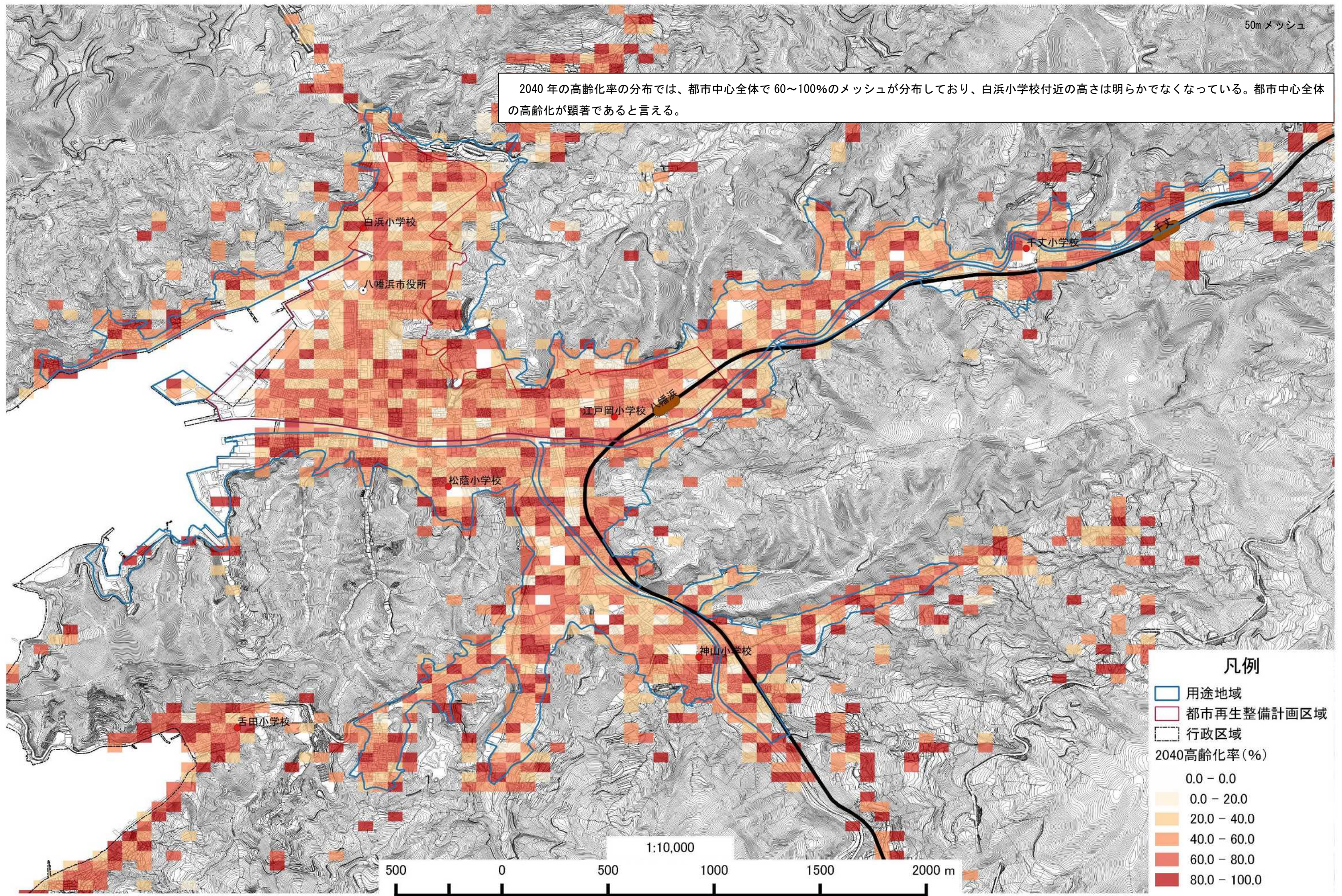


図 2- 57 50mメッシュ高齢化率分布 (2040 年)《都市中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

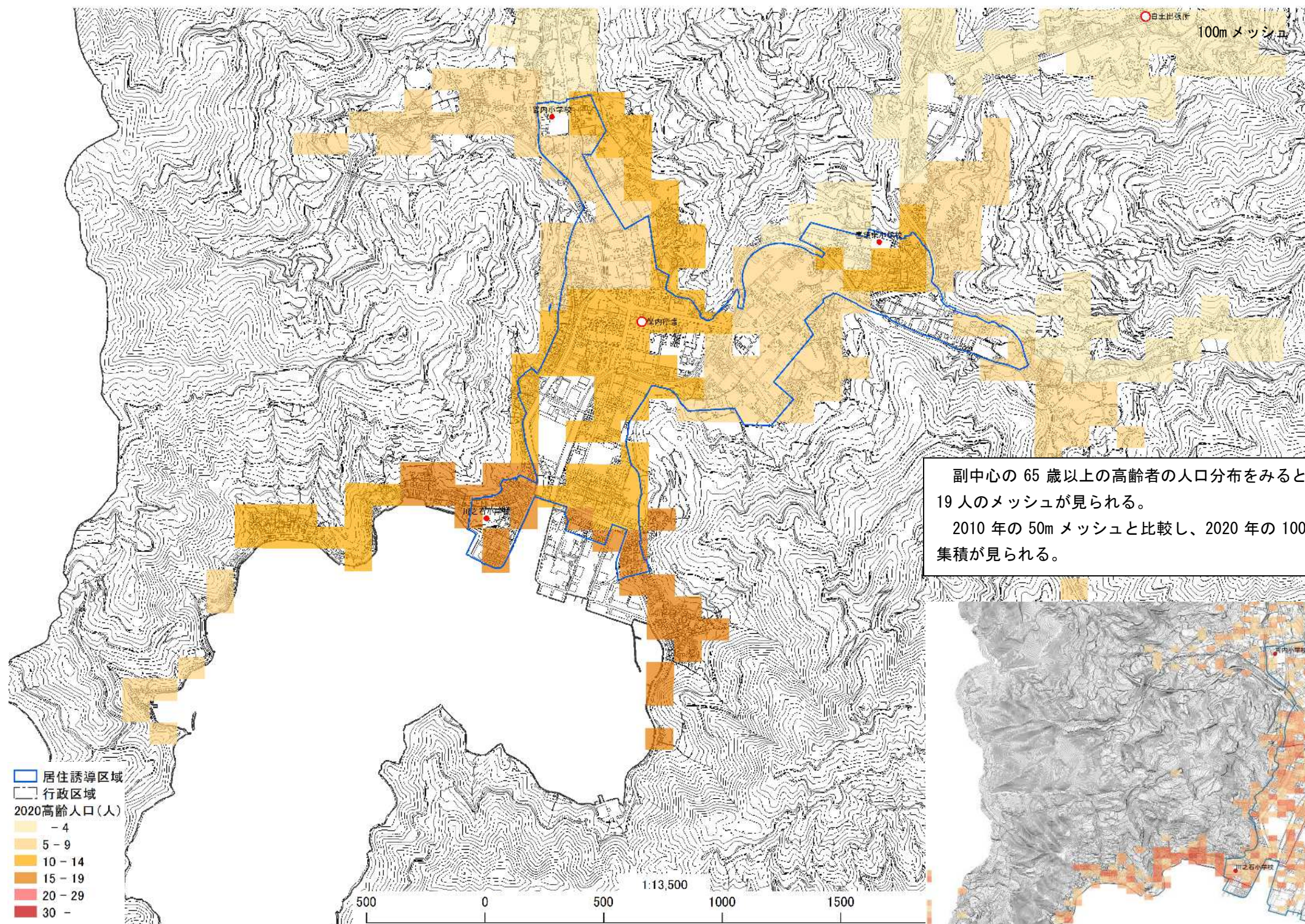


図 2-58 100mメッシュ高齢者人口分布(2020年)《副中心》

出典：都市計画基礎調査(2023年)

副中心の65歳以上の高齢者の人口分布をみると、2020年時点では、川之石小学校周辺の沿岸部で15～19人のメッシュが見られる。

2010年の50mメッシュと比較し、2020年の100mメッシュでは沿岸部及び保内庁舎付近で高齢者人口の集積が見られる。

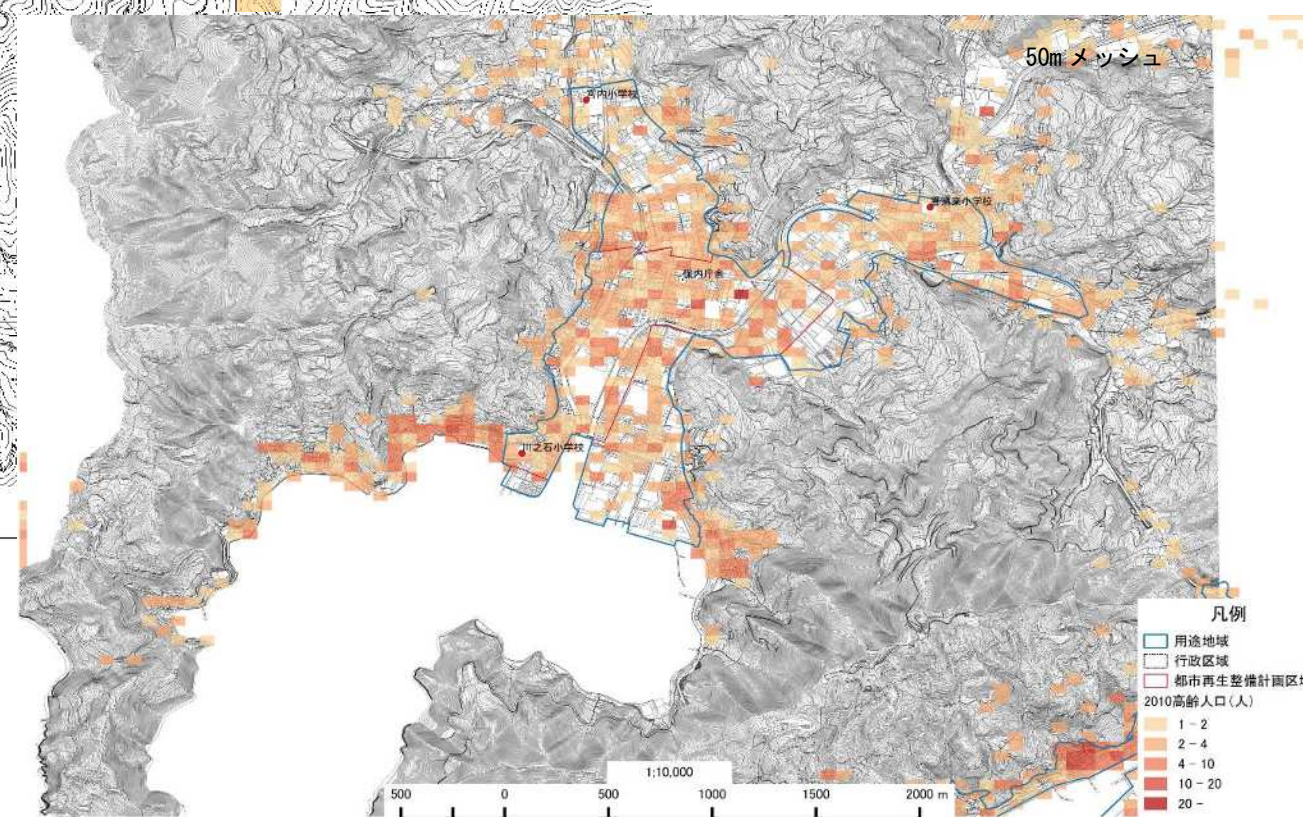


図 2-59 50mメッシュ高齢者人口分布(2020年)《副中心》

出典：都市計画基礎調査(2013年)

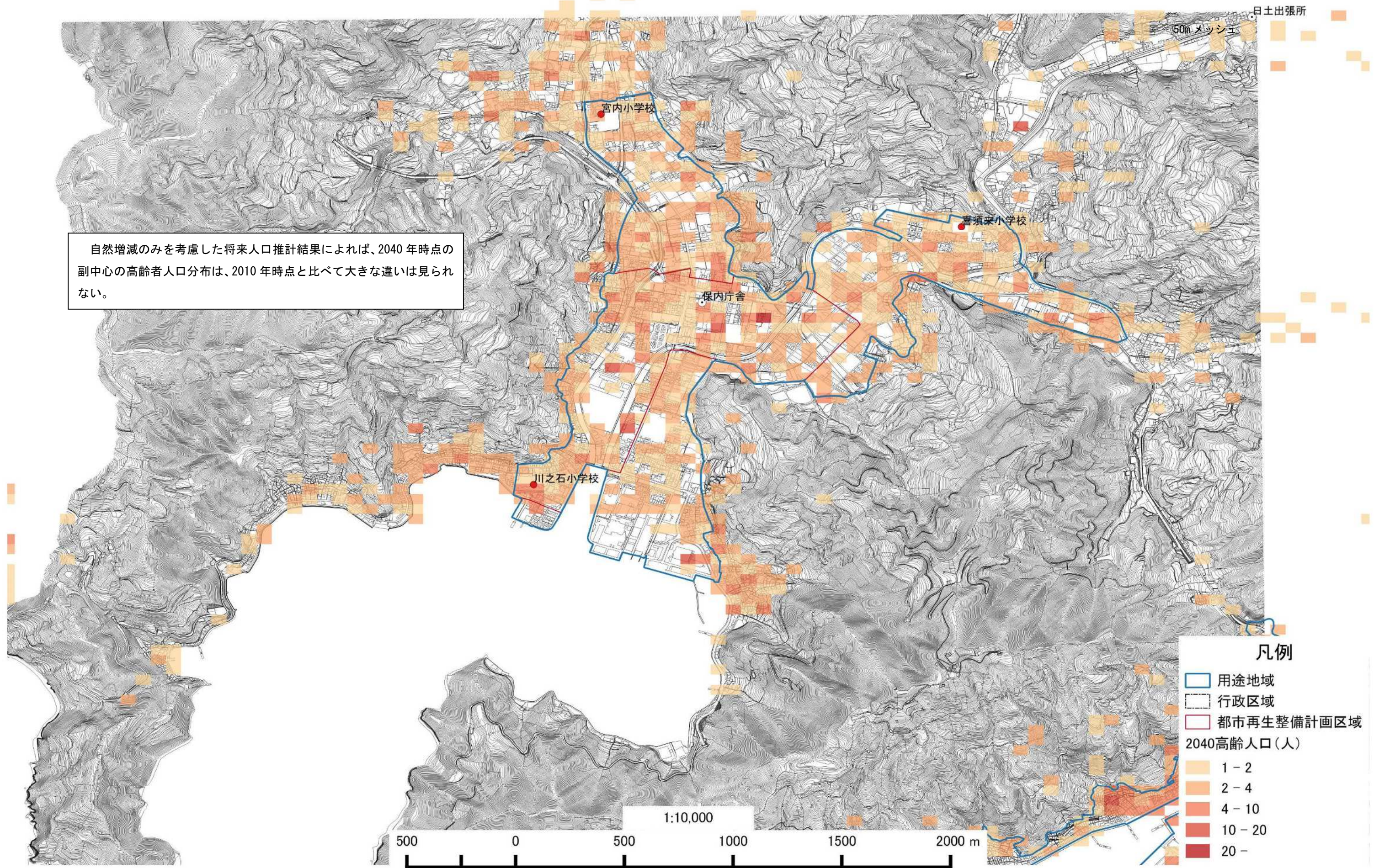


図 2-60 50mメッシュ高齢者人口分布 (2040 年) 《副中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)

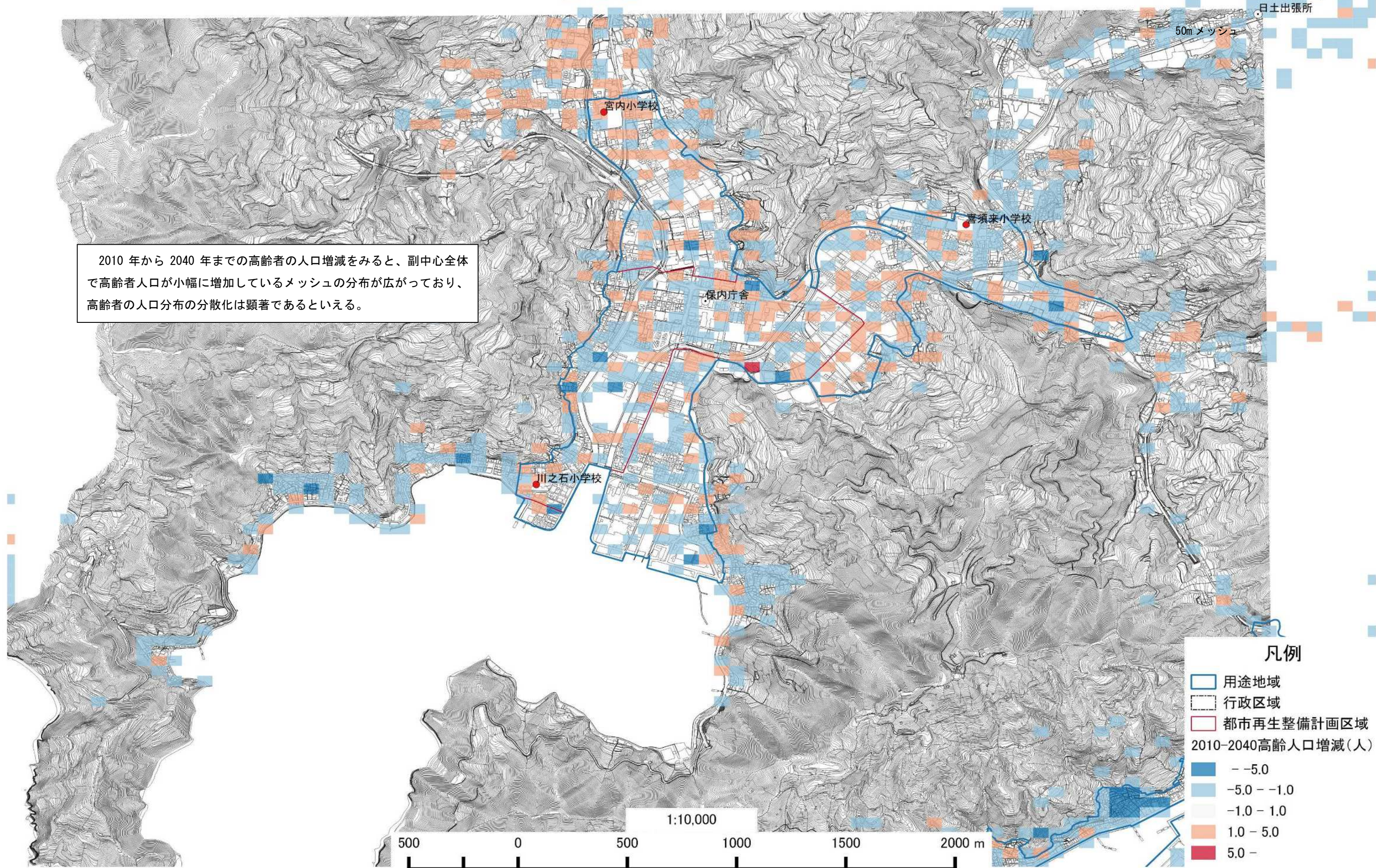
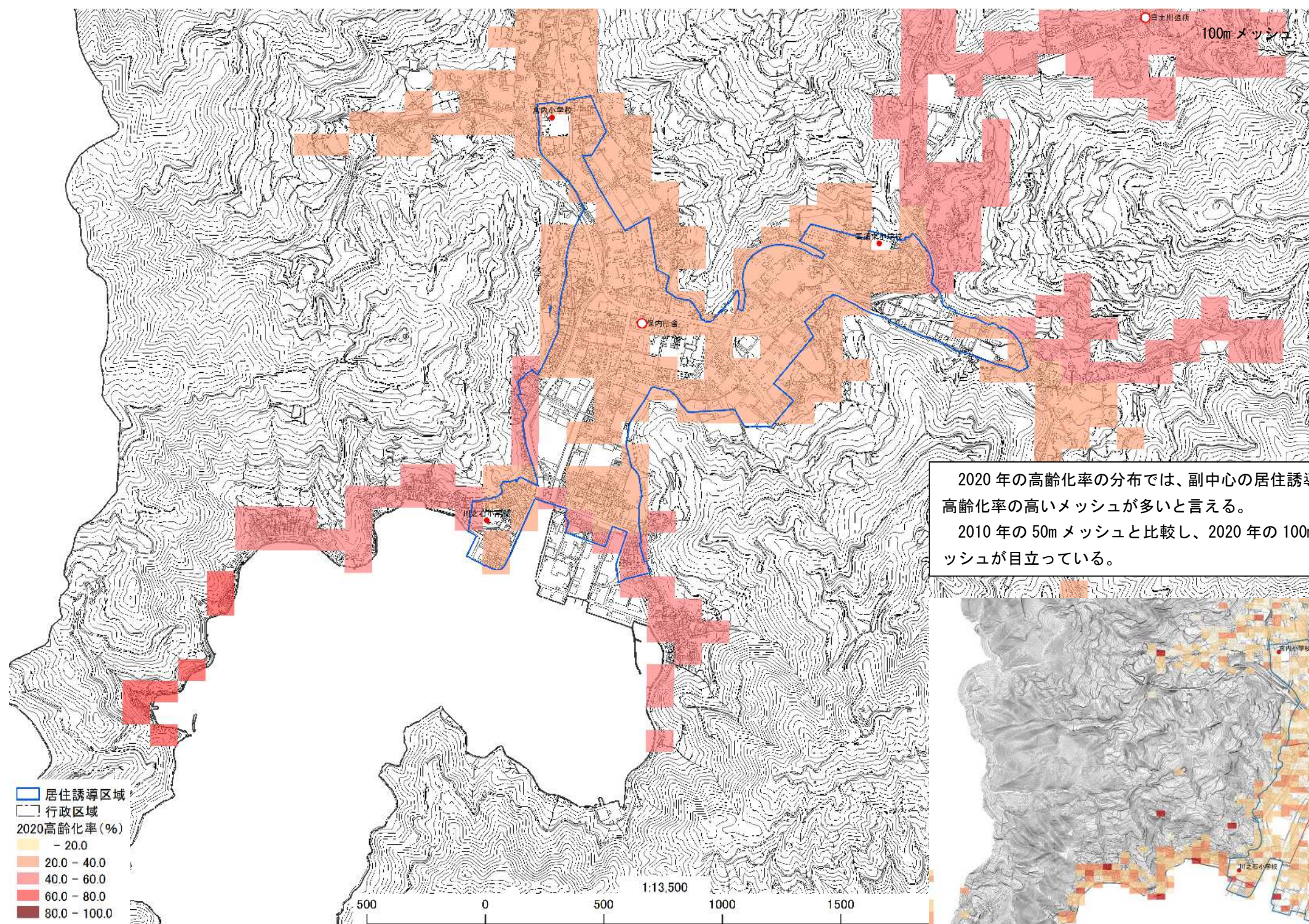


図 2-61 50mメッシュ高齢者推計人口の増減（2010 年→2040 年）《副中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査（2013 年）



2020 年の高齢化率の分布では、副中心の居住誘導区域全体で、20～60%のメッシュが広く分布しており、高齢化率の高いメッシュが多いと言える。

2010 年の 50m メッシュと比較し、2020 年の 100m メッシュでは沿岸部及び山間部において 40～80%のメッシュが目立っている。

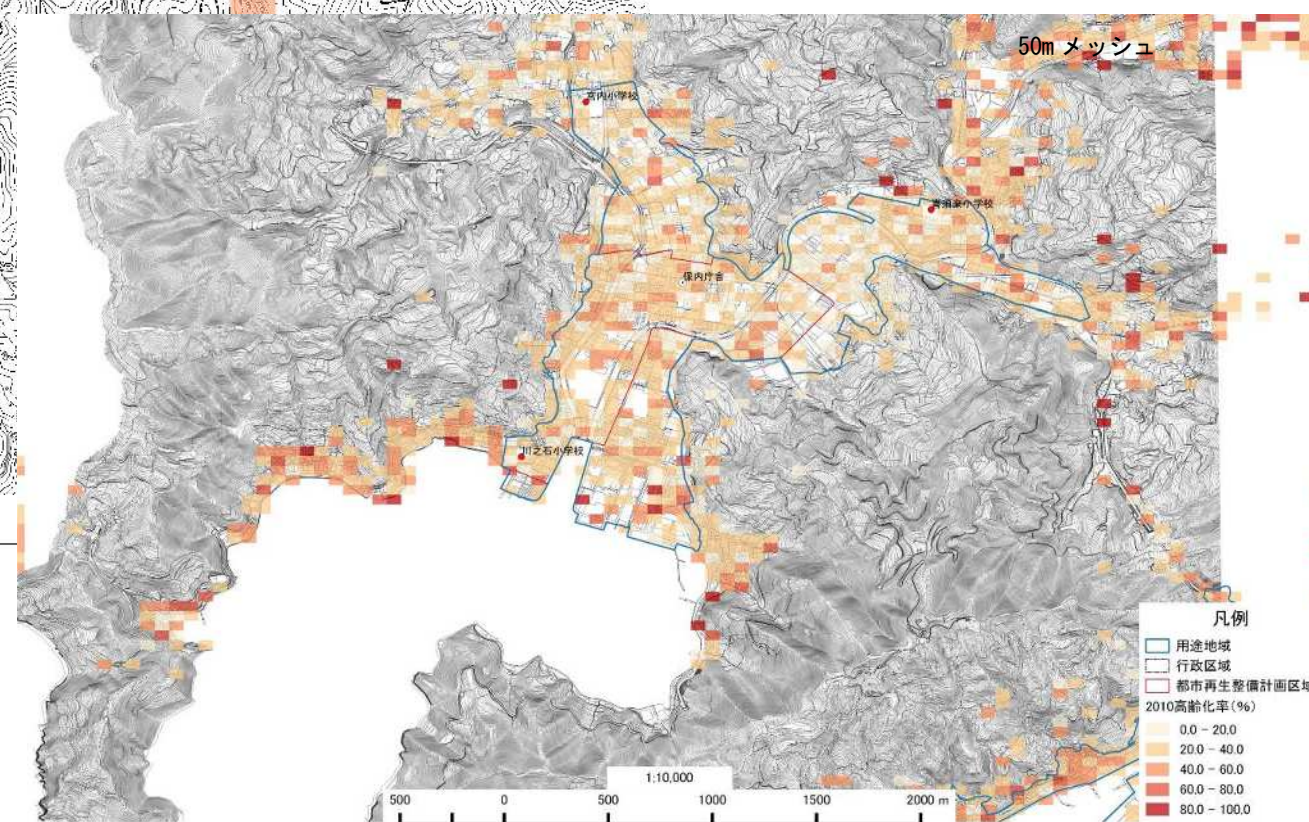


図 2-62 100mメッシュ高齢化率分布（2020 年）《副中心》

出典：都市計画基礎調査（2023 年）

図 2-63 50mメッシュ高齢化率分布（2010 年）《副中心》

出典：都市計画基礎調査（2013 年）

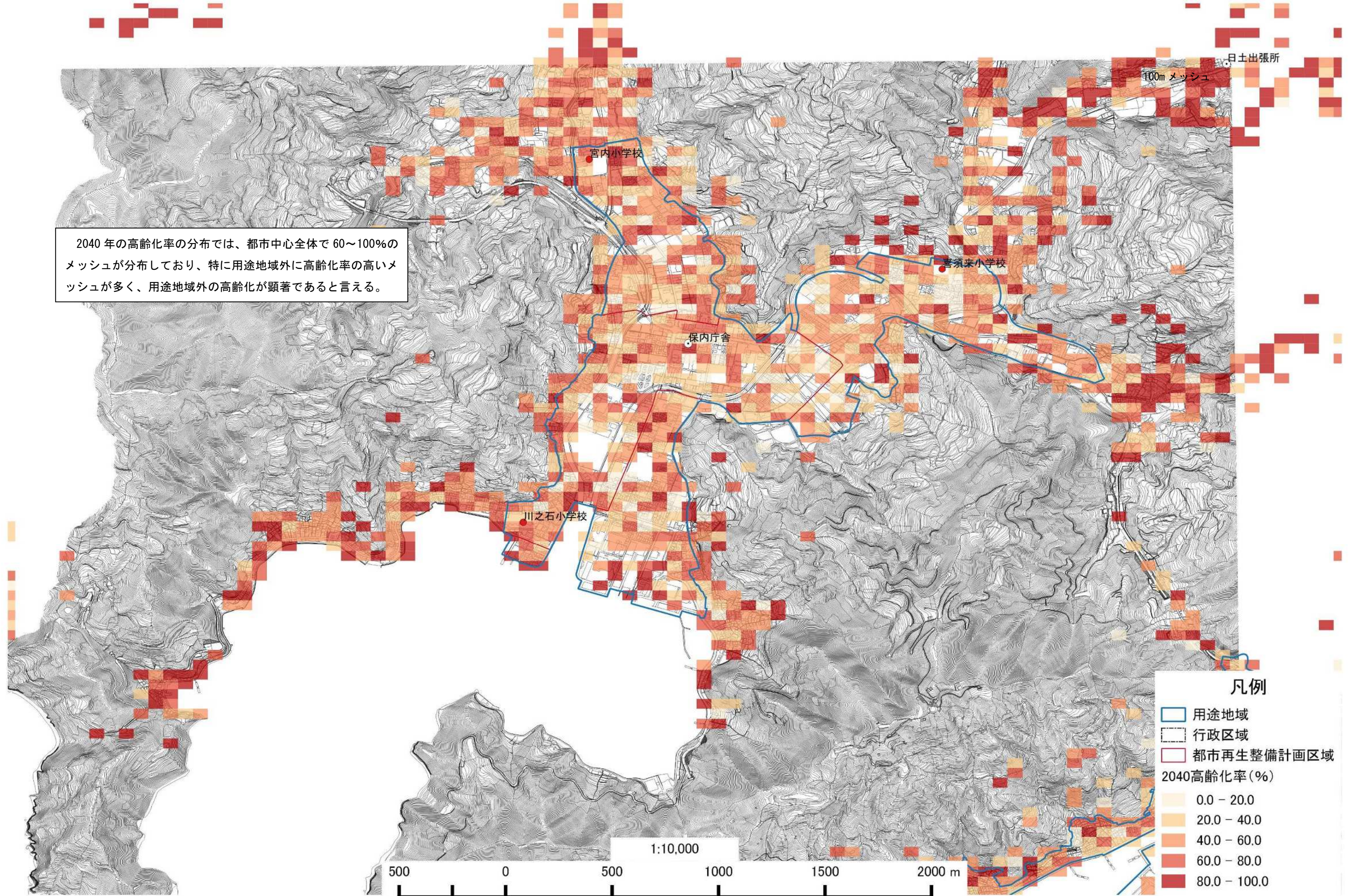


図 2-64 50mメッシュ高齢者率分布 (2040 年) 《副中心》

※推計結果は 2010 年国勢調査に基づく
出典：都市計画基礎調査 (2013 年)